

平成26年度 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」報告書

コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト

**COMMUNITY CAMPUS SAGA
ACTIVATION PROJECT**



国立大学法人 佐賀大学

平成26年度 地(知)の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクト活動風景



プロジェクトA: 佐賀市嘉瀬町でのマップづくりワークショップ
プロジェクトB: 佐賀市東与賀海岸での生物調査
プロジェクトC: 佐賀大学での「健康教室」開催風景
プロジェクトD: 小城市役所にてプレゼンテーションを実施

プロジェクトE: 唐津市の離島診療所での実習風景
プロジェクトF: 佐賀市中心市街地活性化イベントへの参画
プロジェクトG: アグリ医療開発のための研究活動

ご挨拶

平成25年度に本学と永原学園西九州大学とが共同申請し採択された文部科学省の地(知)の拠点整備事業「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」は、事業開始から早くも1年半が経過し、ここに平成26年度の報告書を発行する運びとなりました。

本プロジェクトは、地域を志向した教育・研究・社会貢献に力を入れている両大学が、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生・教職員が一体となって地域課題の解決に向けた実践的な教育・研究を実施し、地域の再生・活性化を図ろうとするものです。現在、佐賀県及び県内6市1町との緊密な連携のもと、佐賀大学では、「学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム」など7つのプロジェクト、西九州大学では、「介護(認知症)予防事業に着目したリハビリテーションプログラム」など5つのプロジェクトが着々と進行中です(全12プロジェクトのうち、7つのプロジェクトは佐賀大学と西九州大学の共同事業)。

平成26年度における佐賀大学プロジェクトの個々の事業内容・成果は、本報告書に記載のとおりですが、特に今年度は、「学生一市民一産学官の協働による地域創生」をテーマとしたシンポジウムの開催、各プロジェクトのパネル展示、全学の教職員を対象としたFD・SD研修会などを実施し、地域再生の核となる大学づくり「COC(Center of Community)構想」推進の一環として位置付けられる本事業の意義や課題、機能強化に向けた今後の取り組み等について、理解を深めて頂きました。

C O C 構想は、文部科学省が平成24年6月に発表した「大学改革実行プラン」において、大学改革の基本的な方向性の一つとして打ち出されたものであり、平成25年度より地(知)の拠点整備事業として実行に移されてきたところですが、国が掲げた地方創生政策のもと、来年度からは、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業、いわゆるC O Cプラス事業として、地方大学を活用した雇用創出・若者定着といった新たな展開が企図されています。

本学が、佐賀の地における知の拠点としてC O C機能を強化し、地域社会の発展に寄与し続けるには、全学的取り組みとしての推進体制の整備とともに、地域と大学との組織的な連携強化が益々重要になると思われれます。学内外皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。



佐賀大学理事・副学長
コミュニティ・キャンパス佐賀
運営委員会・委員長

中島 晃



目次

Page

■ はじめに

03 ご挨拶

佐賀大学 理事・副学長 中島 晃

05 平成26年度年表

06 ご挨拶

地(知)の拠点整備事業と地方創生

佐賀大学事業実施責任者 五十嵐 勉

■ コミュニティ・キャンパス佐賀

アクティベーション・プロジェクトについて

08 プロジェクト概要

プロジェクトA～G紹介

58 地域志向教育研究経費事業

学生の地域における活動拠点

■ シンポジウム・フォーラム・外部評価等の記録

68 コミュニティ・キャンパス佐賀

アクティベーション・プロジェクト拡大推進会議

70 地(知)の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀

アクティベーション・プロジェクトシンポジウム2014

72 コミュニティ・キャンパス佐賀

アクティベーション・プロジェクトFD・SD研修会

74 外部評価

■ 広報関係

76 新聞掲載記事等

90 資料

94 編集後記

平成26年度
年 表

● **2014年**

- 4月18日 第4回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議
- 5月26日 第4回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議（拡大推進会議）
- 6月30日 第5回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
- 7月28日 第5回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議、佐賀大学代表者会議
- 8月22日 コミュニティ・キャンパス佐賀企画部会
- 9月26日 第6回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 10月31日 第6回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議
- 11月22日 九州・沖縄シンポジウムIN宮崎 2014への協力
- 11月25日 第7回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 12月8日 第7回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
- 12月20日 地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト
シンポジウム2014



第4回運営委員会



第4回推進会議（拡大推進会議）



シンポジウム2014



佐賀大学FD・SD研修会

● **2015年**

- 1月23日 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト
佐賀大学 FD・SD 研修会
- 2月18日 第8回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議、第8回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 3月18日 外部評価委員会



九州・沖縄シンポジウム
IN宮崎2014

地（知）の拠点整備事業と地方創生



佐賀大学 事業実施責任者

五十嵐 勉

全学教育機構 教授

産学・地域連携機構／地域連携部門 部門長

本学と永原学園西九州大学の共同申請による文部科学省「地（知）の拠点整備事業—コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」は、事業採択から1年半を経過しました。これまでの両大学における地域を志向した教育研究・社会貢献の実績を基盤に、地域課題の解決に寄与するサービス・ラーニング（SL）・問題解決型学修（PBL）を重視した教育プログラムの改革に取り組んできました。

本事業は、教育カリキュラム上の学年進行で実施されていることもあり、学生の学びと成長、及び地域社会への貢献について、毎年度の評価とともに、入学から卒業までの4年間を通した評価手法の開発も重要な課題となっています。本学においては、ラーニング・ポートフォリオやティーチング・ポートフォリオを進めながら取り組んでいます。地域との連携においては、学生による授業時間の確保に苦勞しながらも、土日や休暇中の学外授業等を活用してきましたが、自治体等との連携や社会貢献の評価方法の確立についても今後の検討課題となっています。

地方創生と地方大学の役割の強化は、本事業が重要なスタートアップ事業であると認識しています。若者の地元定着や雇用の創出という課題解決には、多くの大学・自治体・NPO等の連携が不可欠です。その意味において、西九州大学との共同、佐賀県、及び6市1町との連携は、地方創生への取り組みの試金石として、その可能性に期待されています。

地域に関する学修機会の増大や地域での課題解決型のアクティブ・ラーニングは、学生による地域への誇り（civic pride）や自己の役割を再認識する意味で、「地元定着」意欲の醸成に大きく貢献するものと思っています。

本事業の企画・推進に際して、ご協力いただいた学内の教職員、西九州大学・関連自治体、そして「場の教育」にご協力頂いた地域住民の方々に、お礼申し上げます。次年度以降も、学生教育と地域課題解決に向けた全学的な取り組みを推進しますので、さらなるご支援とご協力をお願いします。

コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・ プロジェクトについて

プロジェクト概要	8～11
プロジェクトA	12～19
プロジェクトB	20～27
プロジェクトC	28～31
プロジェクトD	32～37
プロジェクトE	38～43
プロジェクトF	44～51
プロジェクトG	52～57

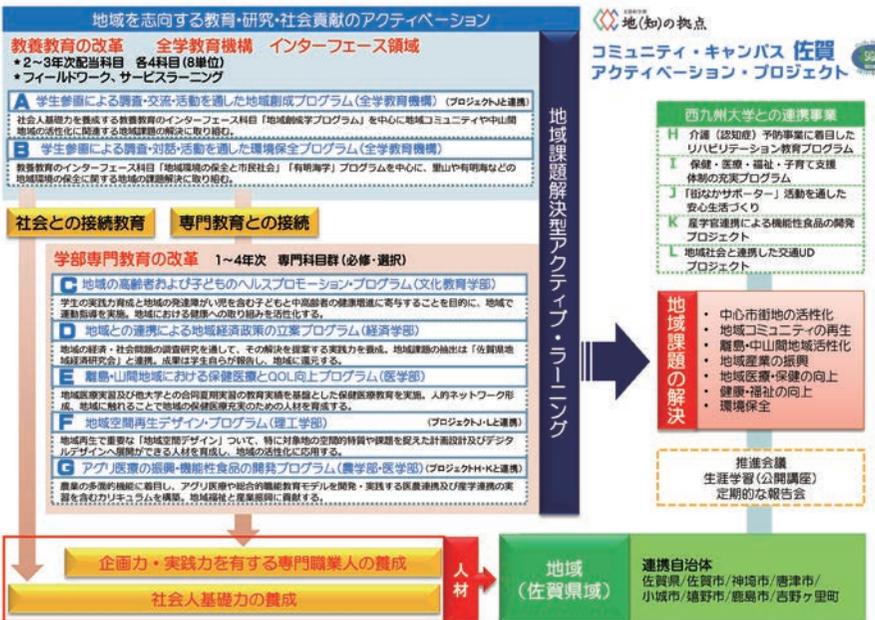
佐賀大学の7つのプロジェクト

図3-1 事業一覧



プロジェクト

図3-2 佐賀大学の事業概要



全12プロジェクト中、佐賀大学ではプロジェクトAからGの7つのプロジェクトを実施しています。

プロジェクト

A

学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム

(連携自治体) 佐賀市、唐津市、鹿島市、吉野ヶ里町

「中心市街地の活性化」や「離島・山間地域の活性化」「地域コミュニティの再生」を目的に、全学教育機構における教養教育改革－社会人基礎力の養成－の一環として行います。教養教育のインターフェース「地域・佐賀学コース」の「地域創成学プログラム」を基盤に、「文化と共生コース」、「生活と科学コース」、「短期留学生プログラム」、及び学部専門科目との連携によって、地域の活性化を目指します。

代表：五十嵐勉 全学教育機構教授



プロジェクト

B

学生参画による調査・対話・活動を通じた環境保全プログラム

(連携自治体) 佐賀市、鹿島市

「地域資源の保全と活用」「有明海の環境保全と活用」を目的に、全学教育機構における教養教育改革－社会人基礎力の養成－の一環として行います。教養教育のインターフェース「環境コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」プログラム、及び「文化と共生コース」の「映像・デジタル表現」、及び学部専門科目との連携によって、主体的な環境学習プログラムを実施・構築します。

代表：郡山益実 全学教育機構准教授

プロジェクト

C

地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト

(連携自治体) 佐賀市、鹿島市、嬉野市

学生の実践力育成と、地域の発達障害児を含む子どもと中高齢者の健康増進に寄与することを目的に、文化教育学部健康スポーツ学講座による地域での運動指導等を行います。地域の子どもから高齢者までを対象にすることで、ヘルスプロモーション能力を底上げし、運動・福祉の側面から、地域の健康への取り組みを活性化します。

代表：井上伸一 文化教育学部教授

プロジェクト

D

地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元

(連携自治体) 佐賀県(佐賀地域経済研究会)、唐津市、小城市

学生自身が、地域の経済問題を調査して課題を見つけ、対策の検討とまとめを行います。地域が抱える課題への対策は、佐賀県下の市部における地域経済政策立案主体からなる「佐賀地域経済研究会」の協力を得ながら行い、その成果は大学の公開講座等で発表して地域に還元します。

代表：戸田順一郎 経済学部准教授

プロジェクト **E** 離島・山間地域における保健医療とQOL向上のための人材育成プロジェクト

(連携自治体) 佐賀市、唐津市

地域医療実習及び自治医科大学との合同夏期実習の教育実績を基盤として、全学教育機構や農学部のプログラムとも連携して保健医療教育を実施します。学生同士の交流や将来の人的ネットワークの形成、地域の文化や伝統に直に触れる機会を持つことによる地域貢献意欲の涵養等を行い、地域での保健医療充実のための人材を育成します。

代表：杉岡 隆 医学部教授

プロジェクト **F** 地域空間再生デザイン・プログラム

(連携自治体) 佐賀市、唐津市、鹿島市、小城市、嬉野市

景観や街並み整備等、地域再生において重要な「地域デザイン」。特に地域の空間分析と将来像をわかりやすく伝えられるよう、対象地の空間的特質や課題を捉えた計画設計、及びデジタルデザインへの展開ができる人材(デザインクリエイター)の育成を行います。また、西九州大学のプロジェクトKと連携し、都市のUD(ユニバーサル・デザイン)による再生にも寄与します。

代表：三島伸雄 工学系研究科教授



プロジェクト **G** アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プロジェクト

(連携自治体) 佐賀市

平成24年度に農学部の新設された附属アグリ創生教育研究センターと医学部、西九州大のプロジェクトH・Kが連携して実施するプログラムです。農の多面的機能に着目して、生き物を通じた医療や総合的食農教育モデルを開発・実践する「医農連携」と、産学連携の実習を含めたカリキュラムです。

代表：上埜喜八
農学部附属アグリ創生教育研究センター准教授



西九州大学との連携事業

プロジェクト **H** 介護(認知症)予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム
(連携自治体) 佐賀市、神崎市、吉野ヶ里町
代表：上城憲司准教授



プロジェクト **I** 保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム
(連携自治体) 神崎市、小城市
代表：樹田晃良教授

プロジェクト **J** 「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくり
(連携自治体) 佐賀市、小城市
代表：岡部由紀夫講師



プロジェクト **K** 産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト
(連携自治体) 佐賀市、神崎市、小城市、嬉野市、吉野ヶ里町
代表：安田みどり教授



プロジェクト **L** 地域住民と連携した交通UDプロジェクト
(連携自治体) 佐賀市、小城市
代表：酒井出教授



【★マーク】は佐賀大学と西九州大学が連携するプロジェクトです。

学生参画による調査・交流・活動を通じた 地域創成プログラム



蕨野の棚田での田植え体験学習

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：全学教育機構

■連携部局：文化教育学部人間環境課程、工学系研究科都市工学専攻、医学部地域医療支援学講座、農学部地域社会開発学コース



実施代表者
五十嵐 勉
(全学教育機構・教授)

■取り組む地域課題：

- ・中心市街地の活性化
- ・離島のQOL向上
- ・中山間地域の活性化
- ・地域コミュニティの活性化

■連携プロジェクト：B、E、F、J

■連携自治体等：佐賀市、唐津市、鹿島市、吉野ヶ里町、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、認定NPO法人地球市民の会、NPO法人蕨野の棚田を守ろう会等

■教育カリキュラム：

- ・全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL/SL型フィールドワーク、community-based learning
- ・インターフェース
「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム、
「文化と共生コース」：映像・デジタル表現プログラム
「生活と科学コース」：アントレプレナーシップ・プログラム
短期留学Space J&Space E：日本事情研修

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ(自治体別)

佐賀市

- ・サテライト「ゆつつら〜と館」を利用した世代間交流、イベントプロデュースの企画と実践
- ・地域コミュニティ組織(まちづくり協議会)への参画による校区「夢プラン」の企画・実施の支援
- ・中山間地域における耕作放棄地の抑止・活用のための「参加型農地管理」のビジネスプラン、「村おこし」イベント等イベントプロデュースの企画・実践

唐津市

- ・離島における地域資源の発掘とその活用
- ・蕨野の棚田保全活動の企画・支援、フットパス・ツーリズム振興、障がい者就労支援

鹿島市

- ・ニューツーリズム振興の企画・支援

吉野ヶ里町

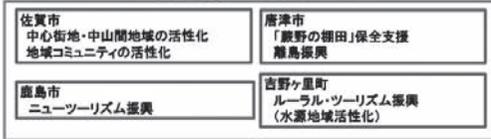
- ・国際ルールツーリズムの企画・支援
- ・水源地(五ヶ山ダム)活性化計画の支援

■ プログラムの目的と方法

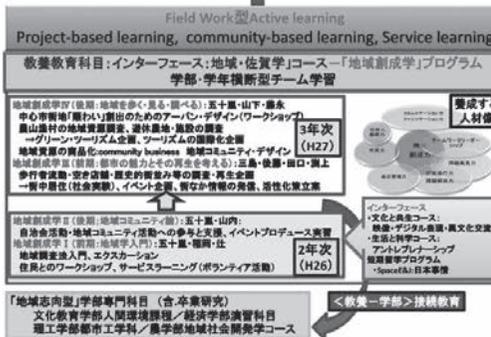
全学教育機構における教養教育インターフェース領域－地域創成学プログラム(4科目8単位)－を核として、「地域の再生や活性化」に関わる地域課題解決型の教育プログラムを実施しています。

学部専門教育への接続と社会人基礎力の養成による社会との接続を目指しています。

地域課題解決型の学修プログラム



<大学→社会>接続教育(「域学連携」)



■ 佐賀市での取り組み①: 地域コミュニティ組織(まちづくり協議会)への参画による地域コミュニティ活性化に関する調査・交流・活動



嘉瀬まちづくり協議会による地域コミュニティ活性化活動に参画しています。

- ・「嘉瀬マップ」づくりやウォーキングイベントの開催
- ・「かかしまつり」への参加・支援
- ・バルーンにストとの交流会への参加

→「つながるさがし交流会」への参加等を通して、地域コミュニティの活性化についての学習と支援活動を継続していきます。

→「ゆつらら〜と館」を拠点にした中心市街地の賑わいの創出に展開させていきます。

■ 佐賀市での取り組み②: 中山間地域の活性化に関する調査・交流・活動



大和町松梅地区において空き家を活用した中山間地域の活性化に関わる取り組みを開始しました。

- ・地域資源の掘り起こし研究として「干し柿づくり」体験を実施
- ・空き家の活用策について、検討を開始

→空き家再生による中山間地域の課題解決に向けた取り組みを継続していきます。

■ 唐津市での取り組み: 麓野の棚田保全活動の企画・支援



住民との企画会議
於 麓野公民館



舞台演出のための竹灯籠作り



演者の交渉・企画会議
→チラシの作成・広報活動



舞台の完成
→残念ながら台風で公民館での開催



麓野の棚田保全支援の新たな展開: 援農活動からイベント支援へ
・棚田のライトアップコンサートの企画と運営への参画

■ 吉野ヶ里町での取り組み: 中山間地域の活性化 ・水源地域活性化のための地域資源調査 ・ルーラル・ツーリズムの国際化

H25・26年度 農学部地域社会開発学コース
「フィールドワーク基礎演習」の合宿授業



坂本公民館でのワークショップ

町長と深夜まで語る

荒廃竹林の伐採作業



吉野ヶ里「地域おこし支援隊」の誕生

- ・農学部2年生有志4名で結成
- ・吉野ヶ里むら旅広団体のサポート
- ・吉野ヶ里観光戦略会議への参画

H25・26年度 全学教育機構「短期留学プログラム」
Space-J&E「日本事情」等の活用によるCool Japan体験



修学院での産物体験

ミニ門松作り体験

大杉の移植技術研修

■ II.平成26年度の活動

佐賀市：

■市民活動団体支援の取り組み

「6/11-12チカラットパネル展」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ(40名)

・地域環境の保全と市民社会Ⅰ(19名)

活動内容：

佐賀市における市民活動団体を応援する「チカラット」とは、佐賀市に住み票がある方が投票すると、その一票が事業の活動支援金となる制度。今回、学生会館一階で学内では初となるチカラットパネル展を開催し、投票を呼び掛けた。

成果(学生教育の観点から)：

パネル展では、佐賀市における市民活動団体の概要や活動内容を知る良い機会となった。また、学生は投票することでまちづくりへの参加意識の向上及び貢献ができた。2日間の投票総数は62票となった。

■嘉瀬まちづくり協議会への参画

「7/2嘉瀬地区タウンウォッチング、嘉瀬マップづくり、8/5嘉瀬マップづくりワークショップ、8/20かかしまつり全体会、9/9嘉瀬マップづくりワークショップ、かかしまつりアイデア会議、



嘉瀬マップづくりワークショップ

9/13かかしまつり全体制作、10/4嘉瀬まちづくり協議会ウォーキングイベント、10/25・26嘉瀬かかしまつり準備」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ(延べ30名)

連携団体：

嘉瀬まちづくり協議会、嘉瀬公民館

活動内容：

嘉瀬まちづくり協議会が行う地域活性化イベントやワークショップ等に参加。地域住民と協働イベントを行った。

成果(学生教育の観点から)：

地域住民が中心となるイベントへの参加によってイベント企画・運営について学ぶことができた。また、ワークショップ等を通じて地域の方々と交流を持つことで、地域課題を探るきっかけとなった。



チカラットパネル展投票所

■害獣駆除の現状を把握

「7/13富士町・三瀬害獣駆除調査」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域環境の保全と市民社会Ⅰ(19名)

活動内容：

佐賀市富士町における獣害と里山の環境問題についての調査。富士町関屋集落の猟師の方へのインタビューとイノシシの有害駆除同行調査を実施した。



イノシシの有害駆除同行調査

成果（学生教育の観点から）：

里山の生物多様性の研究を進めるにあたって必要な、獣害と里山の環境問題の関係について深く知ることができた。

■地域情報発信によるまちづくり

「10/20 つながるさがし交流会」

全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（8名）

活動内容：

インターネットの利点を活用した佐賀市の新しい地域情報サイト「つながるさがし」で情報発信を行う地区（佐賀市内の14校区）のライターと学生の交流会へ参加した。魅力あるサイト作りに向け、ワークショップ形式で意見を出し合い発表した。

成果（学生教育の観点から）：

各地域で活動するキーパーソンである方々との交流によって、地域の現状や課題、実施されてい



つながるさがし交流会におけるワークショップ

るまちづくり活動等について知ることができた。また、地域住民発の情報発信という観点からまちづくりを考えるきっかけとなった。

■実践者から学ぶ“まちづくり”

「11/15まちづくり講習会（ユマニテさが）」

全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（10名）

連携団体：NPO法人まちづくり機構ユマニテさが
活動内容：

NPO法人まちづくり機構ユマニテさが・常務理事によるまちづくりに関する講習会。佐賀市内で実施した多くのまちづくりの事例について説明を聞き、その手法等を学んだ。

成果（学生教育の観点から）：

実際にまちづくりを多く手掛ける方の話を聞き、まちづくりの難しさやおもしろさを知ることができた。また、今後、実践の場に活かせる知識が身についた。

■佐賀市大和町松梅地区での体験学習及び農山村の空き家活用プロジェクト

①11/15松梅地区での体験学習

②1/26農山村の空き家活用プロジェクト

①全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（18名）

②全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（11名）



「干し柿づくり」体験

活動内容：

- ①佐賀市大和町における中山間地域の課題解決に向け、地域住民の指導の下、大和町の秋の風物詩「干し柿づくり」体験を行った。
- ②佐賀市大和町三反田地区のギャラリー・家具工房・蕎麦屋の訪問、名尾地区の空き家及び名尾和紙工房見学、名尾地区ウォーキングを実施した。

成果（学生教育の観点から）：

地域住民の方との交流や地域の観光地見学を通して、課題解決のための方法を具体的にイメージできるようになった。地域資源である干し柿の活用やフットパス・ツーリズム等の企画が提案された。

■ “食” をテーマにした地域活性化

「2/11佐賀市富士町における地域活性化イベントの支援」

農学部 生物環境科学科
・地域資源学研究室（5名）

連携団体：

古湯温泉旅館組合青年部、佐賀県有明海漁業協同組合、佐賀米マーケティング協議会、フォーライスクラブ、古湯温泉旅館組合

活動内容：

佐賀市富士町における地域活性化イベント「第2回 日本一おにぎりを美味しく食べる会 in 古湯温泉」に参加しイベント支援を行った。



佐賀市富士町での地域活性化イベント支援



蕨野の棚田コンサート

成果（学生教育の観点から）：

さがびよりやコシヒカリ、佐賀海苔等、地域の食材を活用した地域活性化イベントの企画・運営を学んだ。また、古湯温泉旅館組合青年部や佐賀県有明海漁業協同組合、佐賀米マーケティング協議会等、イベント関係者に話を伺い、地域活動に対するモチベーションの向上が見られた。

唐津市：

■唐津市相知町蕨野地区での棚田保全活動

「6/7蕨野の棚田での田植え、7/12蕨野の棚田を守る会との協議、9/27棚田コンサート準備、10/5蕨野の棚田コンサート」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学Ⅰ、地域環境の保全と市民社会Ⅰ、地域創成学Ⅱ（延べ120名）

連携団体：NPO蕨野の棚田を守ろう会

活動内容：中山間地域の活性化を目的とした棚田の保全活動。地域のNPOと協働し、棚田での田植えや稲刈り、コンサートの企画・運営を実施した。

吉野ヶ里町：

■吉野ヶ里町観光戦略協議会への参画

「5/15、6/19、7/17、8/21、10/2・15、11/6、11/27、12/18、1/15、2/4、2/26

吉野ヶ里町観光戦略協議会」

活動内容：

吉野ヶ里町の観光戦略について、地域住民が主体となって意見交換する「吉野ヶ里町観光戦略協



吉野ヶ里町観光戦略協議会でのワークショップ

議会」へ参加した。

成果（学生教育の観点から）：

吉野ヶ里町における観光戦略について学ぶとともに、自治体と住民の協力体制のあり方について学んだ。

■地域で学ぶフィールドワークの基礎

「7/19-21 フィールドワーク基礎演習合宿」

農学部 生物環境科学科

- ・フィールドワーク基礎演習（16名）
- ・卒業研究（9名）

連携団体：吉野ヶ里むら旅実行委員会

活動内容：

吉野ヶ里町松隈地区で二泊三日の合宿を行った。五ヶ山ダム見学や、蛤水道・里山ウォーキング、修学院での座禅体験、侵入竹の除伐活動、地区住民との座談会や交流会、町長と語る会等を実施した。

また、昨年、松隈地区において卒業研究を行った



地区住民への聞き取り調査

現修士1年生2名が、地域住民向け研究発表を行った。

成果（学生教育の観点から）：

地区の魅力や課題を知るとともに、地区住民との座談会や聞き取り調査、交流会を通じて、実際の課題にどのように対応していくかを考えるきっかけとなった。また、学生から見た地区の魅力について地域住民と意見交換を行ったことで、地域住民の方が改めて地区の魅力を発見することとなった。

■留学生が日本文化を体験

「12/6 留学生体験イベント」

短期留学Space J & Space E

・日本事情研修A・C（50名）

連携団体：吉野ヶ里むら旅実行委員会

活動内容：

佐賀大学で学ぶ留学生50名が、吉野ヶ里町東脊振における体験学習に参加した。建設中の五ヶ山ダムの土木技術と水没に伴う巨木の杉の移植工事技術の見学、栄西茶を使った茶粥の試食、修学院での座禅体験、ミニ門松づくり等を実施した。

成果（学生教育の観点から）：

日本の文化や農村の現状について学んだ。また、観光の国際化に向けた取り組みについて知ることができた。



ミニ門松づくり体験学習

■Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連するインターフェース科目

「地域・佐賀学コース」-「地域創成学」プログラム

・地域創成学Ⅰ(地域学入門)：

担当：五十嵐勉(全学教育機構)、稲岡 司・辻一成(農学部)

・地域創成学Ⅱ(地域コミュニティ論)：

担当：五十嵐勉・山内一祥(全学教育機構)

・地域創成学Ⅲ(都市再生論)：

担当：三島伸雄・後藤隆太郎・田口陽子・淵上貴由樹(工学系研究科)、五十嵐勉(全学教育機構)

・地域創成学Ⅳ(地域再生論)：

担当：五十嵐勉(全学教育機構)、山下宗利・藤永 豪(文化教育学部)

「文化と共生コース」-「映像・デジタル表現」プログラム

担当：穂屋下茂(全学教育機構)

「生活と科学コース」-「アントレプレナーシップ」プログラム

担当：佐藤三郎・松前あかね(産学・地域連携機構)、中村隆敏(文化教育学部)

「短期留学プログラム(SpaceE&J)：日本事情研修」

担当：古賀弘毅・中山亜紀子・丹羽順子・布尾勝一郎・吉川 達(全学教育機構)

学(李 應喆)、地域ビジネス開発学演習Ⅰ・Ⅱ(白武義治・辻 一成)、人類生態学演習Ⅰ・Ⅱ(稲岡 司・藤村美穂)、地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ(李 應喆・五十嵐勉)、卒業研究

■Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<教員>

(論文等)

・五十嵐勉・李應喆・金 尚範：農業・農村文化の遺産化と地域活性化—日韓比較研究—、「海峡圏研究」、14、2014

・五十嵐勉：棚田と里山、棚田学会編『棚田学入門』、勁草書房、2014

(講演等)

・五十嵐勉：地域コミュニティの活性化と支援—佐賀市での活動の経験から—、福岡市早良区役所講演会、2014

・五十嵐勉：農の活性化と地域のつながり—佐賀“食と農”の絆づくりプロジェクト活動を事例に—、第35回地方自治研究全国集会

・五十嵐勉：地域の地図をつくる、佐賀市嘉瀬町生涯学習講座(全3回)、2014

・五十嵐勉：春日北再発見、佐賀県生涯学習センター課題解決型講座(全4回)、2015

■関連する主な学部専門科目

・文化教育学部：

地理学フィールド実習(山下宗利)、集落実地調査(藤永 豪)

・理工学部：

デザイン分析手法(三島伸雄他)、卒業制作(三島伸雄他)

・農学部：

フィールドワーク基礎演習(白武義治他)、農村開発学(五十嵐勉)、国際農村保健学(稲岡司)、半島・島嶼産業論(小林恒夫)、観光人類

<学生>

- ・ 森部光貴：佐賀平野における木柵工によるク
リーク護岸整備－林・農連携による間伐材の活
用をめぐる、平成26年度佐賀大学農学部地
域社会開発学コース卒業論文
- ・ 高瀬 怜：中山間地域の活性化と中間支援員－
佐賀市における集落支援員と地域おこし協力隊
を事例に－、平成26年度佐賀大学農学部地域
社会開発学コース卒業論文
- ・ 嶋村健志：農山村地域の生活支援と地方公共交
通の改善－佐賀市におけるデマンド・タクシー
とコミュニティ・バスを事例に－、平成26年
度佐賀大学大学院農学研究科修士論文

学生参画による調査・対話・活動を通じた 環境保全プログラム



東与賀海岸での干潟の生き物観察会

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：全学教育機構

■連携部局：農学部、低平地沿岸海域研究センター、総合分析実験センター、理工学部



実施代表者
郡山 益実
(全学教育機構・准教授)

■取り組む地域課題：

- ・地域環境の保全と活用
- ・有明海の環境・干潟の保全と活用
- ・市民協働型の環境教育

■連携プロジェクト：A、F

■連携自治体等：

佐賀県、佐賀市、鹿島市、七浦振興会干潟体験事業部、佐賀環境フォーラム、NPO法人有明海再生機構、NPO法人ビッグ・リーフ、NPO法人みんなの森プロジェクト等

■教育カリキュラム：

- ・全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL／SL型フィールドワーク
- ・インターフェース
「環境コース」：有明海学プログラム・
地域環境の保全と市民社会プログラム
- ・「文化と共生コース」：映像・デジタル表現プログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀市：

佐賀県生物多様性重要地域ークリークと有明海ーにおける地域環境の保全

鹿島市：

有明海の環境保全とエコツーリズム振興

■ II.平成26年度の活動

佐賀市：

■野鳥観察から学ぶ地域環境

「①5/14東与賀で野鳥観察会

②12/13東与賀で野鳥観察会」

①全学教育機構 インターフェース科目
「地域環境の保全と市民社会」(22名)

②全学教育機構 インターフェース科目
「有明海学II」(40名)

連携団体：日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：

①佐賀市東与賀町の大授搦(だいじゅがらみ)で野鳥観察を行った。日本野鳥の会佐賀県支部の方から、ラムサール条約や大授搦で観察できる鳥について説明があった。

②東与賀の干潟で野鳥の観察を行った。野鳥の観察では、日本野鳥の会佐賀県支部から講師を招き、野鳥の種類や生態について説明を受けた。

成果(学生教育の観点から)：

実際に野鳥を観察することで、「日本一のシギ・チドリ」の渡来地である大授搦の大切さや干潟の保全の重要性を認識することができた。また、野鳥の種の判別やその生態、干潟のフィールドサインに関する基礎知識が身に付き、野鳥観察をもとに干潟の多様な生態系や干潟のワイズユースを支える仕組みに関する思考力が深まったと思われる。

■地域イベント開催に向けた生物調査の実施

「6/1・19東与賀生物調査」



野鳥観察

農学部生物環境科学科

・地域資源学研究室(延べ12名)

活動内容：

6/26、28開催の体験学習及びイベント開催に向け、会場である東与賀の田んぼと周辺クリークで生物調査を実施した。

成果(学生教育の観点から)：

調査地における生態系を把握し、小学生向け環境教育ツールを作成した。

■地元小学生への環境教育活動

「6/26 よかつ子環境・農業体験学習」

農学部生物環境科学科

・地域資源学研究室(5名)

連携団体：東与賀まちづくり協議会、JAさが東与賀支所青年部

活動内容：

佐賀大学や東与賀まちづくり協議会、JAさが東与賀支所青年部、地域の方々等が協力して、東与賀小学校の5年生約100人を対象に、生物多様性についての環境学習と、田植え体験学習を実施した。環境学習では、農学部の学生が講師を務めた。

成果(学生教育の観点から)：

事前に生物調査をして作成したツールを使って、小学生向けに環境教育を実践することができた。

■地域や企業と連携した環境保全イベントの開催

「①6/28 第1回AQUA SOCIAL Fes.

②10/11 第2回AQUA SOCIAL Fes.」



東与賀小学校の5年生を対象にした環境学習



環境教育の実践

- ①全学教育機構 インターフェース科目
- ・有明海学Ⅰ (1名)
 - ・地域環境の保全と市民社会Ⅰ (19名)
- 農学部 生物環境科学科
- ・地域資源学研究室 (5名)
- ②農学部
- ・環境地理学 (13名)
 - ・地域資源学研究室 (5名)

連携学生サークル:

For.S (フォーエス)

連携団体:

東与賀まちづくり協議会、佐賀新聞社

活動内容:

トヨタが全国の地方新聞社等と連携して「自然環境保護・保全」を目的に行う社会貢献イベント「AQUA SOCIAL Fes.」において、第1回目は参加者への環境教育と外来種駆除、田植え、第2回目は有明海の生物観察と清掃活動を行った。



野鳥講座の実施

成果 (学生教育の観点から):

参加者への環境教育の実践を通して、改めて生物多様性や外来種駆除の重要性について学ぶことができた。また、地域での活動を通して地域の環境保全の在り方について考えるきっかけとなった。

■座学で学ぶ干潟の野鳥

「8/6 野鳥講座」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域環境の保全と市民社会Ⅰ (6名)

活動内容:

日本野鳥の会佐賀県支部の方を迎え、渡り鳥の種類や主な渡りのルート、生息地とそれを守るためのラムサール条約等について学んだ。



有明海の干潟と野鳥観察用下敷きを作成

成果 (学生教育の観点から):

渡り鳥についての理解が深まることで、生息地となる干潟の重要性、生物多様性保全の大切さを実感することができた。

■干潟の生態調査で学ぶ地域環境:

「①10/25 東与賀で干潟の生態調査、

②10/29 干潟の生き物同定作業」

①全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅱ (40名)

農学部 生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室 (4名)

②全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅱ (40名)



干潟の生態調査

活動内容：

- ①佐賀市東与賀の干潟で、干潟底泥中のベントスの採取、干潟表面の巣穴の分布状況、干潟底泥の酸化還元環境のフィールド調査を実施した。フィールド調査では、6～7名を1グループとし、計6グループで分担・協働しながら作業を行った。
- ②10/25の東与賀干潟の生態調査で採取したベントスの種の同定と調査データの取り纏めを図書館のラーニングcommonsで行った。

成果（学生教育の観点から）：

- ①このフィールド調査により、干潟の基本的な生態調査に関する調査方法とその取り纏めが習得できた。また、調査の結果は、「干潟の環境と生態系」に関する一連の講義で適宜紹介したため、講義内容の理解が深まったと思われる。
- ②グループワークを通して、グループ内での役割分担やレポート作成の協働作業により、調査テーマや干潟環境への理解の掘り下げにつながったと思われる。

■地域資源利用法を考えるワールドカフェ

「11/9 「東よかに行こう。ワールドカフェ」

農学部 生物環境科学科

・干潟環境学 (5名)

全学教育機構 基本教養科目

・環境科学II (2名)

連携団体：一般社団法人 佐賀青年会議所

活動内容：

大学生を中心に、現地環境を体感しながら、ラム



「東よかに行こう。ワールドカフェ」でのディスカッション

サール条約登録後の東与賀の干潟をどのように観光・環境資源として利用するのかについて、ワールドカフェ形式でフリーディスカッションした。

成果（学生教育の観点から）：

講義では、干潟の自然科学的な内容がメインになっているため、この事業を通して、他の大学生との交流やディスカッションすることにより、干潟の環境保全や地域における干潟の有効利用に関する意識の向上が見られた。

■干潟での実験で学ぶ地域環境

「11/29 干潟環境の学生実験」

全学教育機構 インターフェース科目

有明海学II (40名)

農学部 生物環境科学科

浅海干潟環境学研究室 (4名)

活動内容：

干潟の基礎生産に寄与する底泥の付着性藻類の抽出及びその分析と、クリークから流入する懸濁物負荷量の測定を行った。



底泥の付着性藻類の抽出作業

成果（学生教育の観点から）：

実験を通して、干潟の豊かな生態系を支える付着性藻類に関する理解が深まると同時に、干潟における物質循環に関する基礎知識が身に付いた。

■地元小学生対象の自然観察会補助

- 「①1/10 東よか干潟 自然観察会の事前学習会
- ②1/23 東よか干潟 自然観察会」

- ①全学教育機構 基本教養科目
 - ・環境科学II (1名)
 - 農学部 生物環境科学科
 - ・干潟環境学 (3名)
 - ・浅海干潟環境学研究室 (2名)
- ②全学教育機構 基本教養科目
 - ・環境科学II (1名)
 - 農学部 生物環境科学科
 - ・干潟環境学 (3名)
 - ・浅海干潟環境学研究室 (2名)
 - ・地域資源学研究室 (1名)
 - 農学部 応用生物科学科
 - ・システム生態学研究室 (4名)

連携団体：

- ①佐賀自然史研究会
- ②日本野鳥の会佐賀県支部、佐賀自然史研究会、東与賀まちづくり協議会

活動内容：

- ①1/23に実施される東与賀小学校5年生を対象とした「東よか干潟 自然観察会」の打ち合せと調査方法の事前学習会を佐賀自然史研究会と



東よか干潟の自然観察会

共に行った。

- ②東与賀小学校5年生 (100名程度) を対象に干潟の底泥環境、巣穴やシチメンソウの計数、底泥中のマクロベントスの採取、石膏を用いた巣穴の型どりを学生が分担して行った。

成果（学生教育の観点から）：

- ①事前学習会の実施により、当日小学生へ説明する調査法についての理解が深まり、また、小学生への説明内容について予備学習をするため干潟の生物や環境に関する学習意欲が高まった。
- ②小学生へ平易に説明するため、干潟の環境や生物に関する基礎知識の定着や、プレゼン能力及びコミュニケーション能力の向上が図られたと思われる。また、このような地域活動との連携を通して、地域の環境保全に関する実践的活動やキャリア教育の促進につながった。

鹿島市：

■干潟を実感する体験学習

「5/31 鹿島市干潟体験学習」

- 全学教育機構 インターフェース科目
- ・有明海学I (39名)

活動内容：

鹿島市の干潟体験学習を実施した。干潟体験では、実際に泥干潟に入り、泥干潟の環境や潟スキナーなどの体験をし、泥干潟の生物の観察を行った。

成果（学生教育の観点から）：

泥干潟の環境を実体験することで泥干潟の色、におい、感触などを五感で体感し、後学期に開講す



干潟の体験学習



有明海底質の広域調査

有明海学IIへの関心が深まると同時に、有明海学IIで行う干潟のフィールド調査の動機づけにつながった。

■有明海における調査活動

「6/9・10、9/1、9/16 有明海底質の広域調査」

農学部 生物環境科学科
・卒業研究 (2名)

活動内容：

有明海奥部全域を網羅するように23地点の調査地点を設け、採泥と泥温及びEhの測定を行った。採泥した底質は、含泥率と有機物量 (TOC及びTN含有量) の分析を行った。

成果 (学生教育の観点から)：

有明海底質の広域調査により、底質調査・分析方法を修得し、データの取りまとめにより、有明海における底質の分布特性と生物相及び海域特性との関係に関する基礎知識が身に付いた。

■干潟の伝統漁撈を知る体験学習

「7/27 干潟の伝統漁撈体験学習」

全学教育機構インターフェース科目
・地域環境の保全と市民社会I (7名)

連携団体：鹿島ニューツーリズム協議会

活動内容：

鹿島ニューツーリズム協議会の干潟体験学習「棚じぶ」(四つ手網漁)、「うなぎ塚」、「持ち網漁」、陸での「ムツカケ漁」を体験し、干潟の伝統漁撈について学習した。

成果 (学生教育の観点から)：

干潟の伝統漁撈を実際に体験することで、生業として消滅の危機にある漁撈文化の保存・継承・活用を考えるきっかけとなった。

■III. 授業科目・担当者一覧

■関連するインターフェース科目

「環境コース」－「有明海学」プログラム

・有明海学I (有明海学概論)

担当：速水祐一 (低平地沿岸海域研究センター)、濱田孝治 (低平地沿岸海域研究センター)、五十嵐勉 (全学教育機構)、郡山益実 (全学教育機構)、李應喆 (農学部)、片野俊也 (東京海洋大学)

・有明海学II (干潟の役割)

担当：郡山益実 (全学教育機構)

「環境コース」－「地域環境の保全と市民社会」プログラム

・地域環境の保全と市民社会I

担当：五十嵐勉 (全学教育機構)

・地域環境の保全と市民社会II

担当：兒玉 宏樹 (総合分析実験センター)、宮島 徹 (工学系研究科)

「文化と共生コース」－「デジタル表現」プログラム

担当：穂屋下茂 (全学教育機構)

■関連する主な学部専門科目

・農学部

干潟環境学 (郡山益実)、卒業研究 (郡山益実)、卒業研究 (五十嵐勉)、実験水気圏環境学 (郡山益実)

・農学研究科：

浅海環境工学特論 (郡山益実)

■IV.関連する主な教育・研究・社会 貢献業績

<教員>

(論文等)

- ・濱田孝治, 速水祐一, Adi NUGRAHA, 山口創一, 郡山益実: 諫早湾干拓潮受堤防排水門の開門の影響予測及び開門方法への提言、海と空 89: 115-124、2014
- ・T. Katano, M. Yoshida, S. Yamaguchi, K. Yoshino, T. Hamada, M. Koriyama, Y. Hayami: Effect of nutrient concentration and salinity on diel vertical migration of *Chattonella marina* (Raphidophyceae), *Marine Biology Research* Vol 10, No.10:1007-1018, 2014
- ・Yuichi Hayami, Kazunori Maeda, and Takaharu Hamada, “Long term variation in transparency in the inner area of Ariake Sea”, “*Estuarine, Coastal and Shelf Science*”, doi:10.1016 /j.ecss.2014.11.029, 2014.
- ・A. Isnansetyo, S. Getsu, M. Seguchi, M. Koriyama: Individual Effect of Temperature, Salinity, Ammonium Concentration and pH on Nitrification Rate of the Ariake Seawater Above Mud Sediment, *HAYATI Journal of Biosciences*, 21(1):21-30, 2014
- ・F.Kondo, T.Haraguchi, M.Koriyama: EXPERIMENTAL STUDY ON THE REDUCTION OF NUTRIENTS IN CREEK WATER USING WOOD CHARCOAL, BAMBOO CHARCOAL AND CLINKER ASH, *Proceedings of the International Symposium on Woods Utilization*: 79-83, 2014
- ・西山修司, 郡山益実, 石谷哲寛: 有明海奥部における底泥の巻き上げ特性に関する現地観測, 佐賀大学農学部彙報 100: 55-62、2015
- ・石谷哲寛, 郡山益実, 宮本英揮: TDRを用いた泥質干潟域底泥の変動量に関する連続モニタリング技術の開発, *水土の知* 82(4), 327-328、2014
- ・速水祐一, 田井明: 「有明海の潮汐・潮流の長期変化」*日本の科学者*, 2015年2月12日

- ・五十嵐勉・李應喆・金尚範: 農業・農村文化の遺産化と地域活性化一日韓比較研究一、「海峡圏研究」、14、2014
(講演等)
- ・郡山益実: 「干潟の環境と生物」、佐賀県高等学校教育研究会理科部会生物部会、佐賀県立鹿島高等学校、平成26年5月20日
- ・郡山益実: 「地域で学ぶ意味～有明海研究を有明海学へ～」、九州地区国立大学間合同合宿共同授業、九州地区国立大学九重共同研修所、平成26年8月25日
- ・五十嵐勉: 「ラムサール条約登録湿地・韓国順天市における干潟環境保全の取り組み」、まえうみ市民の会、平成26年8月18日

<学生>

- ・西山修司, 郡山益実, 石谷哲寛: 「有明海奥部西岸域における底泥の巻き上げ特性」、農業農村工学会大会講演会(新潟 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター)、2014年8月
- ・山本敦士, 郡山益実, 石谷哲寛, 西山修司, 中村紀弓佳: 「諫早湾及び潮受け堤防内調整池における底質の栄養塩環境」、農業農村工学会九州支部(佐賀市 ホテルグランテはがくれ)、2014年10月
- ・西山修司, 郡山益実, 石谷哲寛: 「有明海奥部河口浅海域における底泥の巻き上げ特性と水質環境」、農業農村工学会九州支部(佐賀市 ホテルグランテはがくれ)、2014年10月
- ・山本敦士: 「諫早湾及び潮受け堤防内調整池における底泥の栄養塩濃度の季節変化」、農学部 生物環境保全学科 生物環境保全学コース 卒業論文
- ・西山修司: 「有明海奥部底泥の巻き上げに伴う懸濁層内の栄養塩変動特性」、農学研究科 生物資源科学専攻 生物環境保全学コース 修士論文

地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション 促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト



佐賀大学健康教室における集合写真

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：文化教育学部

■連携部局：文化教育学部健康スポーツ科学講座、文化教育学部地域生活講座



実施代表者
井上 伸一
(文化教育学部・教授)

■取り組む地域課題：

- ・地域の高齢者の健康増進と子どもの体力向上

■連携自治体等：

佐賀県、佐賀市、嬉野市、鹿島市、NPO法人スポーツフォアオール

■教育カリキュラム：

- ・ヘルスプロモーション実習
- ・レクリエーション実習

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ(自治体別)：

佐賀市：

- ・佐賀大学における地域住民参加者と学生スタッフでの健康教室の開催。講義や演習等で学んだ運動プログラムを作成し、参加者に指導することにより学生の実践力を育成
- ・センサを用いた高齢者の歩行動作の解析

嬉野市：

- ・出張型の健康教室における学生オリジナルの運動プログラムを作成、指導を行い、現場に即した指導力を育成
- ・身体測定・体力測定を分析、評価
- ・活動量計を用いた高齢者の活動量の解析

鹿島市：

- ・出張型の健康教室における学生オリジナルの運動プログラムを作成、指導を行い、現場に即した指導力を育成
- ・身体測定・体力測定を分析、評価
- ・活動量計を用いた高齢者の活動量の解析

プログラムの目的

「地域の高齢者の健康増進と子どもの体力向上」を目的に、文化教育学部における実践力育成プロジェクトとして行います。地域の高齢者や子どもとの関わりを通して、学生の「指導力」、「企画運営力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」の育成を目指します。

主な関連科目

◆学部専門科目(文化教育学部)
「ヘルスプロモーション実習Ⅰ・Ⅱ」担当:井上伸一、「レクリエーション実習」担当:松山郁夫
「健康福祉論」担当:山津幸司、「安全教育」担当:栗原淳、「バイオメカニクス」担当:井上 他



これまでの活動

■ 佐賀大学中高齢者のための健康教室

佐賀大学において、地域住民参加者170名と学生スタッフ60名での健康教室を行っています。学生は、講義や演習等で学んだ運動プログラムを参加者に指導することにより、実践力を育成しています。



■ 嬉野市、鹿島市における出張健康教室

嬉野市、鹿島市において出張型の健康教室を行い、各地域の参加者(嬉野50名、鹿島100名)と学生スタッフ11名で活動しています。身体測定・体力測定を分析評価し、また運動プログラムを学生自ら考え指導することで、現場に即した指導力の育成を目指しています。



今後の予定

現在の地域における健康教室を継続、また新たな地域における事業の展開を行い佐賀県全域におけるヘルスプロモーションの促進を行っていきます。

健康教室の主な活動内容

血圧測定・問診

学生が血圧測定・問診します。参加者の方々が楽しく安全に運動を行えるよう、毎回教室が始まる前に測定します。学生に測定されて血圧が上がってしまうことも...



身体・体力測定

健康教室参加前・参加後に身体測定、体力測定を行います。測定のなかには、体組成や骨密度など普段なかなか測れないものもあり、教室参加前後の記録を見比べて自分の頑張りわかります!!いい結果が出たら自分をほめてあげてください。



ストレッチ・筋トレ

学生によるストレッチ・筋トレを行います。教室では年齢や希望に応じて班分けをしますので、各班のレベルに合わせたメニューで進行していきます。



リズムダンス

教室のメインプログラム!!インストラクターの大西真果先生によるリズムダンス。音楽のリズムに合わせて体を動かします。大西先生の掛け声と明るい音楽が流れだすと、みんな自然と体が動き出します。



レクリエーション

学生が考案したレクリエーション。「楽しい、嬉しい!」自分の感情を思い切り表現して、学生もスタッフも全員参加で楽しいレクを行います。



ミニ講義

大学の教員があなたの気になる健康、運動、栄養、生活等に関する短い講義を行います。いろいろな教員がそれぞれの専門分野について話します





佐賀大学健康教室における学生とのレクリエーションの様子



学生オリジナルのトレーニングを指導する様子

■ II.平成26年度の活動

佐賀市：

■佐賀大学中高齢者のための健康教室

「4/25-7/11、10/10-12/12健康づくり推進団体
支援事業における健康教室」

文化教育学部人間環境課程

- ・ヘルスプロモーション実習Ⅰ（43名）
- ・ヘルスプロモーション実習Ⅱ（35名）
- ・レクリエーション実習（3名）
- ・健康福祉論（7名）

連携団体：

特定非営利活動法人スポーツフォアオール

活動内容：

佐賀大学での健康教室において、参加者の運動プログラムの指導を行い、実践力の育成を行った。また、参加者とのレクリエーションを通して学生のコミュニケーション能力を育成した。

成果（学生教育の観点から）：

健康教室に参加したことにより、地域住民と学生の交流が深まるとともに、学生の現場に即した実践力が高まった。

鹿島市：

■鹿島市における出張健康教室

「5/16-7/18、10/3-12/5介護予防普及啓発事業
における健康教室」

文化教育学部人間環境課程

- ・バイオメカニクス（9名）

連携団体：

特定非営利活動法人スポーツフォアオール

活動内容：

出張型の健康教室において、学生自らが考えた運動プログラムの指導を行った。また、参加者の体組成、骨密度、活動量を測定し、分析・評価を行った。

成果（学生教育の観点から）：

出張型健康教室に参加したことにより、鹿島市の地域住民と学生の交流が深まった。また、身体・体力測定を行うことで学生のヘルスプロモーションに対する知識の向上が見られた。

嬉野市：

■嬉野市における出張健康教室

「4/22-7/1・7/15-9/30口コモ予防運動教室にお
ける健康教室」

文化教育学部人間環境課程

- ・ヘルスプロモーション実習（5名）



参加者への骨密度測定の様子

連携団体：

特定非営利活動法人スポーツフォアオール

活動内容：

出張型の健康教室において、学生自らが考えた運動プログラムの指導を行った。また参加者の体組成、骨密度、活動量などの分析・評価を行った。

成果（学生教育の観点から）：

出張型健康教室に参加したことにより、嬉野市地域住民と学生との交流が深まった。また身体・体力測定を行うことで学生のヘルスプロモーションに対する知識の向上が見られた。

.....

・入海里実「3ヶ月間の健康教室が高齢者の持久力に及ぼす影響」、佐賀大学文化教育学部卒業論文

■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連する主な学部専門科目

文化教育学部：

- ・ヘルスプロモーション実習Ⅰ・Ⅱ 担当：井上伸一
 - ・レクリエーション実習 担当：松山郁夫
 - ・健康福祉論 担当：山津幸司
 - ・安全教育 担当：栗原 淳
-

■ IV. 関連する主な教育・研究・社会貢献業績

< 教員 >

(講演等)

- ・井上伸一「介護予防貢献会」，鳥栖市主催事業，平成 26 年 11 月 11 日
- ・井上伸一「佐賀大学中高齢者のための健康教室」平成 26 年 4 月～7 月，10 月 12 月
- ・井上伸一「口コモ予防運動教室」，平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月
- ・井上伸一「介護予防普及啓発事業」，平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

< 学生 >

- ・野田幹也「9 軸センサを用いた歩行動作に関する研究」、佐賀大学文化教育学部卒業論文
- ・黒木麻弥子「高齢者の活動量と日常生活・意識の関係」、佐賀大学文化教育学部卒業論文

地域との連携による地域経済政策に関わる 学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元



小城市役所における研究発表会

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：

経済学部（地域経済研究センター）

■連携部局：全学教育機構インターフェース

「地域・佐賀学コース」



実施代表者

戸田 順一郎

（経済学部・准教授）

■取り組む地域課題：

- ・地域公共政策の立案
- ・地域産業の振興政策の立案
- ・地方政治の活性化
- ・地域ブランドの開発

■連携プロジェクト：A

■連携自治体等：

佐賀県（佐賀地域経済研究会）、小城市、唐津市

■教育カリキュラム：

- ・地域経済と社会
- ・演習

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

小城市：

- ・「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」をテーマに、「小城市牛津保健福祉センターアイル」および隣接する「牛津総合公園」を対象とした調査研究を実施。

唐津市：

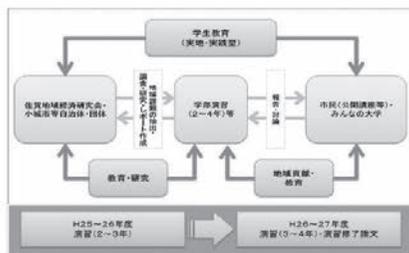
- ・防災対策基本法の改正にともない各自治体は各種の防災計画を練り直している。本テーマは、唐津市を中心にその点の現状を、町づくりの観点を含めて調査研究する。本年度は第一年目。

プログラムの目的

学生自身が、地域の経済問題を調査して課題を見つけ、対策の検討とまとめを行います。地域が抱える課題への対策は、佐賀県下の市部の地域経済政策の立案主体からなる「佐賀地域経済研究会」の協力を得ながら行い、その成果は大学の公開講座等で発表して地域に還元します。

主な関連科目

◆学部専門科目(経済学部)
「演習(2~4年)」担当: 戸田順一郎、富田義典、山本長次、畑山敏夫、櫻澤秀木、納富一郎



これまでの活動

■ 「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」に関する調査研究

小城市より地域課題に関する研究テーマとして提案していただいた、「牛津保健福祉センターアイル」および隣接する「牛津総合公園」の利活用策を考えるという課題(課題解決型学習(PBL))に取り組んできました[経済学部演習3年(戸田ゼミナール)において実施]。

当該施設・地域に関する現状分析、先行研究や関連制度に関する文献調査、住民や関係者へのワークショップ、聞き取り調査、アンケート調査、先進事例についての現地調査などを行いました。また研究成果については小城市役所にて成果報告会を開催しました。



現地視察(牛津総合公園)



育児サークルでのインタビュー



阿蘇ファームランド(熊本)



0123はらっぱ(東京)



牛津小学校でのワークショップ



小城市役所でのワークショップ



小城市役所での成果報告会

■ 「地域防災と自治体」に関する調査研究 ※本年度からスタート

防災は日本列島に住む私たちすべてが考えるべき大切な問題です。地方自治体も防災対策基本法により「地域防災計画」の策定が義務づけられ、その作業を開始しています。私たちの取り組むこのテーマは、防災計画の策定に取り組む自治体の現状を、高齢化が進む地域社会においてそれがどのように進められているか、また地域

防災計画の策定を町づくりなどに生かしているかを主たる観点として調査研究を進めるものです。また、他地域における同種の試みと、県内のそれとの比較も重要なテーマとしています。

本年度は、調査初年度ということで、他地域(とくに甚大な災害を受けた東北地方の自治体)の現状を視察しました。

ウォッチング東北 3日目

- 宮城県石巻市
- ①石巻市立大川小学校訪問
- ②北上町十三浜訪問
- 十三浜漁協組合長による講話
- ③乗船体験
- ④漁師の方のお手伝い

(被災地研修の学生による報告資料)



仙台市の防災計画



石巻市の被災記録映像



石巻市北上町の被災状況



被災者の証言を聞く



宮城県・亶理町被災地を訪ねて

今後の予定 ~ 「地域防災と自治体」に関する調査研究 ~

本年度は本テーマ開始年度であり、比較対象地域である東北地方に視察研修に向き、貴重な知見を得ました。今後はその内容をまとめ、大学の公開講座で発表し、主調査対象地域である唐津市や東松浦地域の問題を調査研究していきます。



牛津小学校の6年生とワークショップを実施



子育てサークルでのインタビュー

■ II.平成26年度の活動

小城市：

■「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」に関する調査研究

〔6/2牛津小学校でのワークショップ〕

経済学部経済システム課程総合政策コース

・演習(3年)(12名)

活動内容：

小城市立牛津小学校6年1組において、子供たちにとって身近な公共施設であるアイルおよび牛津総合公園を題材に、地域の遊び場と公共施設のあり方について考えるワークショップを行った。

成果(学生教育の観点から)：

アイルおよび牛津総合公園についての地元の子供たちの認識や思い、考え、さらに地域の遊び場の状況について知ることができ、学生の地域に対する関心が深まった。

■「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」に関する調査研究

〔8/21(他3日)育児サークル(牛津保健福祉センターアイル)でのインタビュー〕

経済学部経済システム課程総合政策コース

・演習(3年)(3名)

活動内容：

アイルで行われている育児サークルの利用者を対象に、アイルや牛津総合公園の利用や子どもの遊び場についてのインタビューを行った。

成果(学生教育の観点から)：

アイルおよび牛津総合公園についての子育て中の母親たちの思いについて知ることができたとともに、学生の地域に対する関心が深まった。

■「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」に関する調査研究

〔9/21-23ゼミ合宿での中間報告会〕

経済学部経済システム課程総合政策コース

・演習(3年)(13名)

・演習(4年)(10名)

活動内容：

ゼミ合宿(福岡県田川郡赤村)にて、本調査研究の中間報告会を実施した。

成果(学生教育の観点から)：

この問題についての議論を深めることができ、今後の調査研究をすすめていく上での課題が明確となった。

■「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」に関する調査研究

〔10/30、小城市役所職員とのワークショップ〕

経済学部経済システム課程総合政策コース

・演習(3年)(13名)

活動内容：

小城市役所職員の方々(約20名)とアイルの現状と利活用策をテーマとしたワークショップを開催した。



小城市役所におけるワークショップ

成果（学生教育の観点から）：

学生の地域に対する関心が深まるとともに、自治体職員の方々と話をする中で地域の課題解決を考えることの難しさを実感することができた。

■「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」に関する調査研究

「12/10、小城市役所での研究成果報告会」
経済学部経済システム課程総合政策コース
・演習（3年）（13名）

活動内容：

小城市役所にて小城市長および小城市役所職員に向け研究成果を報告した。

成果（学生教育の観点から）：

研究全体を通して、学生たちが大変多くのことを地域の方々から学び、地域に対する関心が深まるとともに、まちづくりの難しさを知ることができた。



研究成果報告で小城市長と



佐賀地域経済研究会のセミナー

唐津市：

■防災対策に関わる研究会セミナーへの参加

「9/3 佐賀地域経済研究会のセミナー（関西大学社会安全学部准教授 山崎栄一氏による講演）への参加」

経済学部経済システム課程総合政策コース
・演習（3年）（10名）

活動内容：

自治体における防災計画および災害避難計画の策定の現状と課題についてのセミナーに参加し、講演と、講演者と自治体職員との質疑を傍聴した。

成果（学生教育の観点から）：

学生には少しむずかしい内容であったかもしれないが、防災対策で自治体が抱える問題を知ることができた。

■「防災対策と町づくり」の比較研究

「【県外】9/24-26 地域防災事業での宮城県・福



東日本大震災の被災地視察

島県視察]

経済学部 経済システム課程

・演習 (3年) (8名)

・演習 (2年) (1名)

経済学部 経営・法律課程

・演習 (3年) (3名)

・演習 (2年) (1名)

活動内容:

東日本大震災の被災地である宮城・福島両県を訪ね、被災者の生活の現状の聞き取り調査、および自治体の防災計画の資料収集を行った。

成果 (学生教育の観点から):

大きな被害を受けた地域の被害の状況とその後の生活の状況を直に見聞し、学生は防災対策の重要性を実感し、今後の防災に関する学習への確実な動機付けとなった。

■防災に関する聞き取り調査実施

「2/16 唐津市役所で「唐津市における防災対策と町づくり」に関する聞き取り調査」

経済学部 経済システム課程総合政策コース、

経営・法律課程法務管理コース

・演習 (3年) (10名)

活動内容:

唐津市における防災計画および災害避難計画の策定の現状と課題についての聞き取り調査を実施した。

成果 (学生教育の観点から):

今回は第一回目の聞き取り調査であり、調査に入るための準備段階の調査であった。原発事故避難に関する計画をはじめ各種の防災計画の策定に忙殺されている自治体の様子をうかがうことができ、初年時の目的を達成した。

■防災対策と町づくり

「12/10 防災対策と町づくり事業の公開講座での研究発表」

経済学部 経済システム課程

・演習 (3年) (8名)



公開講座「みんなの大学」における研修報告

・演習 (2年) (1名)

経済学部 経営・法律課程

・演習 (3年) (3名)

・演習 (2年) (1名)

活動内容:

経済学部主催公開講座「みんなの大学」で、9月に行った東日本大震災の被災地の現状視察研修の学生による報告を行った。三班に分け、研修の内容との報告、およびそれに関する公開講座出席者との質疑を行った。

成果 (学生教育の観点から):

東北の被災地の研修で見聞してきたことの報告とそれに関わる市民の方たちとの質疑によって、学生たちには見聞したことの再確認とその意味をより深く考える機会となった。

.....

■Ⅲ. 授業科目・担当者一覧

■関連する主な学部専門科目

・経済学部: 演習 (2~4年)

(富田義典・山本長次・畑山敏夫・榎澤秀木・納富一郎・戸田順一郎)

■関連するインターフェース科目

・「地域・佐賀学コース」- 「地域経済と社会」プログラム

地域経済と社会Ⅲ (地域と労働)

担当: 富田義典 (経済学部)

■IV.関連する主な教育・研究・社会 貢献業績

<教員>

(論文)

- ・富田義典「戦後労使関係史における安賃闘争の位置」『大原社会問題研究所雑誌』（法政大学）675号、2015年1月
- ・榎澤秀木「社会による法変容と法による社会変容—産業廃棄物問題を素材として」村田彰先生還暦記念論文集編集委員会編『現代法と法システム』酒井書店、p.579-596、2014年。
- ・畑山敏夫他編『ポストフクシマの政治学』法律文化社、2014年。
- ・山本長次「『リコー三愛グループ創始者・市村清と佐賀』（岩田書院、2014年）を刊行して」佐賀地域経済研究会にて、於、佐賀大学、2014年5月21日
- ・山本長次「市村清の経営思想」日本経済思想史学会にて、於、慶應義塾大学、2014年7月12日
- ・山本長次「佐賀県における地域ブランド化の推進—伊万里の和牛の事例を中心に—」佐賀地域経済研究会にて、於、伊万里市役所、2014年7月16日
- ・佐賀県立博物館・森永太郎展・食のフォーラム「和菓子と西洋菓子の出会い」におけるコーディネーターと森永太郎の森永製菓の創業に関する報告、於、佐賀県立博物館、2014年8月2日
- ・山本長次「市村清のリコー三愛グループの諸事業と佐賀」第4回在来知歴史学国際シンポジウムin佐賀にて、於、佐賀大学、2014年10月27日（報告内容は『ISHIK2014』186-191頁に所収）
(学会発表)
- ・富田義典：社会政策学会「セッション 新日本窒素の労使関係・労働運動の諸相」のコーディネータおよび発表（中央大学）2014年、5月31～6月1日

<学生>

- ・経済学部戸田ゼミナール他『コミュニティ・キャンパス佐賀 プロジェクトD報告書2014年度』（2015年3月）
- ・小脇愛理「川内原発における原子力安全協定の問題」、卒業論文
- ・長瀬晋太郎「3.11前後における原子力安全協定の比較」、卒業論文
- ・松永伸一「原子力安全協定をめぐる理論状況」卒業論文
- ・一ノ瀬朱音「大学生による提案型まちづくりに関する考察～『地域活性化プランコンテスト』を事例として～」、卒業論文
- ・荒木拓也「地方都市における大型商業施設の盛衰と地域経済～福岡県大牟田市を事例として～」、卒業論文
- ・山本ゼミ「佐賀県の道の駅」全九州学生商経ゼミナール大分大学大会、2014年11月29日・30日

離島・山間地域における保健医療と QOL向上のための人材育成プロジェクト



■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：

医学部地域医療支援学講座（寄附講座）、医学部社会医学講座予防医学分野）

■連携部局：農学部生物環境科学科地域社会開発学コース、全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」



実施代表者
杉岡 隆
(医学部・教授)

■取り組む地域課題：

- ・「へき地」医療人材の育成
- ・離島や山間地域の保健医療とQOLの向上

■連携プロジェクト：A

■連携自治体等：

佐賀県、佐賀市、唐津市、唐津赤十字病院、唐津市消防本部、佐賀県医療センター好生館、佐賀市富士大和温泉病院、佐賀市三瀬診療所

■教育カリキュラム：

- ・自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習
- ・地域枠入学生特別プログラム
「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」
「地域医療セミナー」
- ・「地域医療実習」
- ・インターフェース
「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀県：

- ・佐賀県内の離島および山間部地区における宿泊型の地域医療実習の企画・支援
- ・離島及び山間部における医療対策、必要な資源について講義
- ・唐津赤十字病院、唐津河畔病院、佐賀県医療センター好生館における防災対策と緩和ケア医療実習の企画調整

佐賀市：

- ・富士大和温泉病院、三瀬診療所における山間部地域医療実習の施設提供と講義

唐津市：

- ・小川島、加唐島、馬渡島における離島実習の企画・支援
- ・離島医療対策、原子力災害への防災対策についての実習企画・支援
- ・地域の緩和ケア医療対策についての実習企画・支援

プログラムの目的

離島や山間部で行う地域医療実習や佐賀県内の基幹病院実習を基盤として、地域における医療保健に関する教育プログラムを充実させるものです。地域・行政(唐津市、佐賀市他)と連携し、地域の文化や伝統にも直接触れる機会を持つことで、地域に愛着を持った地域貢献の意欲を涵養することが目的です。

このプロジェクトにより育成された人材が、将来的には地域における保健医療活動に従事し、地域住民の保健医療およびQOLの向上に貢献することを目指します。

主な関連科目

- ◆学部専門科目(医学部)
 - 「地域枠入学生特別プログラム」担当:杉岡隆、福森剛男他、「地域医療(ユニット1)」担当:杉岡隆、福森剛男他、「地域医療実習」担当:杉岡隆、福森剛男他、「在宅医療・在宅ケア実習」担当:杉岡隆、福森剛男
- ◆関連授業科目及び学部専門科目
 - (医学部)「フィールドワーク基礎実習」「半島島嶼産業論」「国際農村保健学」「人類生態学演習Ⅰ・Ⅱ」他
 - (全学教育機構)全学教育機構「インターフェース:地域・佐賀学コース」「地域創生学」プログラム他



これまでの活動

■ 自治医科大学・佐賀大学・長崎大学医学部合同夏期実習

佐賀県内の離島および佐賀市の山間部(富士町、三瀬町)の診療所を中心に2泊3日の実習を行いました。実際に地域の医療・保健・福祉の現場に触れることで、地域医療に従事する医師の役割や責任について学習しました。また今年は「緩和ケア」「災害対策」もテーマにして、緩和ケア病棟や玄海原子力発電所も見学させていただきました。



診療所・病院内の見学



診察体験



今年は、初の試みとして、学生による地域住民へのヘルスプロモーションを行いました。医療者として、医療情報を提供することは難しかったようですが、住民の方々には評判がよかったです。

■ 地域枠入学生特別プログラム 佐賀県内基幹病院・中核病院実習

県内の地域医療の現状を把握し、大学病院などの専門診療との連携のあり方について学ぶことを目的にして、医学科1年時に県内の基幹病院で実習を行います。

実習の最終日は、全員で地域医療が抱える問題点について話し合い、今後の学習目標をたてました。



血圧測定実習



先輩医師からの話し



■ 地域医療セミナー

年2回ほどのペースで、県内の地域医療の実情や問題にふれる機会を設けています。地域で健康に幸せに暮らすために必要な資源について学生同士で意見を出し合いました。



今後の予定

県内の自治体と連携して、実際の地域医療の現場で医学実習を経験することにより、地域が抱える医療問題に直に触れることができました。

今後は、学生がさらに地域医療問題に対して意識を高め、医学生のうちから取り組むべき具体的な学習目標の設定とヘルスプロモーションなどの地域医療活動ができるようになることを目指します。

■ II.平成26年度の活動

佐賀県、佐賀市、唐津市：

■地域枠入学生による早期臨床体験実習

「9/1-5 地域枠入学生特別プログラム「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」」

医学部地域枠特別入学生

・「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」(25名)

連携団体：

佐賀大学病院、佐賀県医療センター好生館、NHO佐賀病院、NHO嬉野医療センター、唐津赤十字病院、唐津市民病院きたはた、佐賀市立富士大和温泉病院、太良町立病院、伊万里有田共立病院、小城市民病院、大町町立病院、織田病院(鹿島市)、江口病院(小城市)、ひらまつ病院(小城市)、佐賀記念病院(佐賀市)、ふじおか病院(佐賀市)

活動内容：

佐賀県内の地域基幹病院・中核病院で、1週間の参加型実習を行った。

成果(学生教育の観点から)：

医学部医学科1年次の早期に、地域の基幹病院・中核病院で実習を行うことで、地域医療に必要なスキルと地域のニーズに触れることができ、今後の学習目標を明確に立てることができた。



病院実習のまとめ

■離島及び山間部における地域医療実習と緩和ケアへのとりくみ

「8/19-21自治医科大学・佐賀大学・長崎大学 合同夏期実習」

医学部医学科地域枠入学生

・「自治医科大学・佐賀大学・長崎大学 合同夏期実習」(13名)

連携団体：

佐賀県医務課、唐津市小川島診療所・加唐島診療所・馬渡島診療所、唐津赤十字病院、唐津河畔病院、佐賀県医療センター好生館、佐賀市富士大和温泉病院、佐賀市三瀬診療所、佐賀市三瀬保健センター

活動内容：

実習には、自治医科大学学生8名、長崎大学医学部生2名をあわせた計23名が参加した。学生は4班に分かれて、唐津市の離島と佐賀市の山間部における僻地医療の現場を2泊3日の行程で見学した。学生は自分たちで協議して作成した医療に関するテーマについて、住民にむけてヘルスプロモーションを行った。また、佐賀県の緩和ケアの取り組みについて、緩和ケア病棟を有する佐賀県医療センター好生館と唐津河畔病院で実習を行った。

成果(学生教育の観点から)：

将来、佐賀県内の離島や山間部で医療を行うために必要な医療者としてのスキルと地域における課題、ニーズを知ることができた。また、学生自ら地域住民にヘルスプロモーションを行うことで、医



唐津市離島での地域医療実習

療情報を伝えることの難しさとやりがいについて体験することができた。さらに、「緩和ケア」とはどのような医療であるかについて、医療者の考え方や環境整備、考えるべき地域課題について具体的に学習できた。

■鹿島地区をモデルにした地域診断

「10/1 地域医療セミナー」

医学部医学科 地域枠入学生特別プログラム

・「地域医療セミナー」(8名)

連携団体：

特定医療法人祐愛会織田病院（鹿島市）

活動内容：

佐賀県鹿島市の医療・福祉・介護において主たる活動をしている祐愛会織田病院理事長 織田正道氏を招聘し、地域包括ケアの解説と織田病院の取り組み方について講義をうけた。その情報をもとに、「住民が健康に安心して暮らすためにどのような街づくりをするか」という課題について、グループワーク形式で街づくりのシミュレーションを行った。

成果（学生教育の観点から）：

近年、地域医療において重要な役割をになう地域包括ケアについて、具体例をもとに概要を理解することができた。学生自ら「街づくりのシミュレーション」をすることで、地域に必要な資源や医療サービスについて深く学習することができた。



地域包括ケアについて考えるグループワーク

■Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連する主な学部専門科目

医学部：

- ・Phase V「地域枠入学生特別プログラム」
- ・佐賀県内基幹病院・中核病院実習（担当：杉岡 隆、福森則男）
- ・地域医療セミナー（杉岡 隆、福森則男）
- ・Phase III「ユニット1（地域医療）」（杉岡 隆、福森則男）
- ・Phase IV「臨床実習」（杉岡 隆、福森則男）
- ・Phase IV「地域医療実習」（杉岡 隆、福森則男）
- ・Phase V「臨床系選択科目」
- ・在宅医療・在宅ケア実習（杉岡 隆、福森則男他）
- ・地域包括ケア実習（杉岡 隆、福森則男他）
- ・地域家庭医療実習（杉岡 隆、福森則男他）
- ・Phase I「生活医療福祉学－医療におけるチームアプローチのあり方－」（堀川悦男）
- ・Phase III「ユニット12（社会医学・医療社会法制）」（原めぐみ、市場正良他）

農学部：

- ・農村開発学（五十嵐勉）、地域資源学演習II（五十嵐勉・李應喆）、卒業研究

■関連するインターフェース科目

- 「地域・佐賀学コース」－「地域創成学」プログラム
- ・地域創成学I（地域学入門）
担当：五十嵐勉（全学教育機構）、稲岡 司・辻一成（農学部）
 - ・地域創成学II（地域コミュニティ論）
担当：五十嵐勉・山内一祥（全学教育機構）
 - ・地域創成学IV（地域再生論）
担当：五十嵐勉（全学教育機構）、山下宗利・藤原豪（文化教育学部）

■IV.関連する主な教育・研究・社会 貢献業績

<教員>

(論文等)

- ・杉岡 隆,野口 善令,大西 良浩,(福原 俊一監修). 診断法を評価する~いつも行っている検査は有用か?~ シリーズ臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト7. 認定NPO法人健康医療評価研究機構. 2014
- ・Fukumori N, Yamamoto Y, Takegami M, Yamazaki S, Onishi Y, Sekiguchi M, Otani K, Konno S, Kikuchi S, Fukuhara S. Association between hand-grip strength and depressive symptoms; Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS). Age and Ageing, 2014. (in press)
- ・Hayashino Y, Jackson JL, Hirata T, Fukumori N, Nakamura F, Fukuhara S, Tsujii S, Ishii H. Effects of exercise on C-reactive protein, inflammatory cytokine and adipokine in patients with type 2 diabetes: a meta-analysis of randomized controlled trials. Metabolism 2014;63(3), 431-440.
- ・坂西 雄太, 原 めぐみ, 福森 則男, 草場 鉄周, 田中 恵太郎, 杉岡 隆. わが国のプライマリ・ケア医のトラベラーズワクチンの接種状況、接種推奨の割合と関連因子. 日本渡航医学会誌, 2014;7(1):13-18.
- ・坂西 雄太, 原 めぐみ, 福森 則男, 草場 鉄周, 田中 恵太郎, 杉岡 隆, 日本プライマリ・ケア連合学会ワクチン・プロジェクトチーム. わが国のプライマリ・ケア医の定期接種および任意接種ワクチンの接種状況、接種推奨割合および接種推奨の障壁. 日本プライマリ・ケア連合学会雑誌, 2014; 37(3): 254-259.
- ・坂西 雄太, 福森 則男, 杉岡 隆. 【へき地医療を考える-日本のへき地を支えるプライマリ・ケア医の重要性-】 保健・行政 北海道の幌加内町

でのワクチン公費全額助成導入と啓発活動. 治療,2014;96(1):66-68.

(講演等)

- ・杉岡 隆. 臨床研究の基本:臨床研究の道標に沿って. 第31回日本TDM学会学術大会, 東京. 2014年5月31日.
- ・Fukumori N, Eguchi H, Tokutomi J, Naito Y, Sakanishi Y, Yamashita S, et al. The difference of the characteristics of new patients visiting a Japanese emergency hospital between at night and daytime: a cross-sectional study. The 37th Annual Meeting of Society of General Internal Medicine. San Diego, USA. 2014.4.23-276
- ・福森 則男. 地域総合医療を目指して. 松梅健康フォーラム. 2014年9月20日.
- ・倉田 毅,徳島 緑,福森 則男,山下 秀一,杉岡 隆,木須 達郎. 佐賀大学病院附属の公立病院内サテライト診療センターにおける総合内科医育成および地域医療連携の試み. 第53回全国自治体病院学会.2014年10月30日-31日.

<学生>

- ・坂井 ひかり, 山崎 温詞, 江口 紘平, 牛島 宏貴, 龍 知歩. .2014年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 学生健康講話「高血圧って危険??」. 唐津市加唐島診療所.2014年8月19日.
- ・池内 理一郎, 貞島 健人, 橋口 公輔, 古賀 俊介, 松浦 洋. 2014年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 学生健康講話「高血圧」. 唐津市小川島診療所.2014年8月19日.
- ・牛草 淳, 荻野 祐也, 澁木 祥太, 小路 梓, 荒巻 芽生. 2014年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 学生健康講話「熱中症を予防しよう」. 唐津市馬渡島診療所.2014年8月19日.
- ・田代 卓, 前山 元, 古賀 文崇, 元村 晃大, 小金丸 三璃, 武富 映典, 江頭 志穂, 松永 明紗. 2014

年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏
期実習 学生健康講話「熱中症」. 佐賀市三瀬保
健センター.2014年8月19日.



■ I.プロジェクト概要

■事業実施主体：工学系研究科

■連携部局：全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」、農学部生物環境科学科地域社会開発学コース、医学部地域医療支援学講座、文化教育学部人間環境課程、全学教育機構・デジタル表現技術者養成プログラム、産学・地域連携機構（ゆつつら〜と館）



実施代表者
三島 伸雄
(工学系研究科・教授)

■取り組む地域課題：

- ・中心市街地の活性化
- ・まちなか再生
- ・歴史的環境の再生と保全

■連携プロジェクト：A、J、L

■連携自治体等：

佐賀市、小城市、唐津市、嬉野市、鹿島市、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会、いきいき唐津株式会社

■教育カリキュラム：

- ・インターフェース
「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム、
- ・理工学部「建築・都市デザイン・プログラム」における PBL/SL 型フィールドワーク、Community based learning

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀市：

- ・地域イベント（ライトファンタジー）への参画による地域活性化まちづくり活動の体験学習
- ・まちの間プロジェクト「佐賀よかこの家」を通じた中心市街地における学生の居場所づくり

鹿島市：

- ・鹿島市民会館（仮称）整備への参画を通じた地域課題の理解と地域交流施設の計画・設計技術の習得
- ・肥前鹿島駅前広場の計画
- ・歴史的町並みの利活用に関する空間調査および提案
- ・歴史的町並みにおける住民共創型防災まちづくり

嬉野市：

- ・新幹線敷設に伴う温泉新駅周辺まちづくり
- ・温泉街まちめぐりに向けた空間活用提案

小城市：

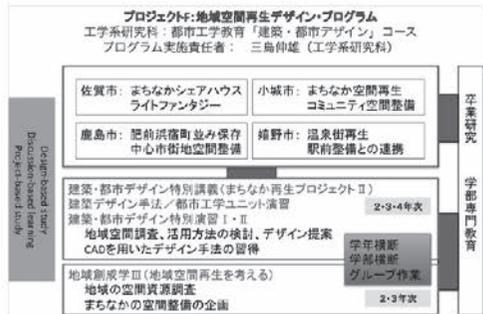
- ・公的施設空間の計画支援

プログラムの目的

「まちなか再生」「地域生豊かな空間創出」に向けて、地域空間再生デザインに資することができる人材を輩出することを目的とします。都市工学科・都市工学専攻の建築・都市デザイン関連科目を軸に、全学教育機構の「地域・佐賀学コース」「異文化理解コース」とも連携しながら、地域空間再生を目指します。

主な関連科目

◆学部専門科目(理工学部(建築・都市デザインコース))
「図学」担当:三島伸雄、測上貴由樹、「基礎設計製図演習」担当:後藤隆太郎、田口陽子、測上貴由樹、「建築都市デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」担当:高木正三郎他、「建築デザイン手法」担当:平瀬有人他、「建築・都市デザイン特別講義(地域再生プロジェクト)」担当:三島伸雄他
◆関連する教養教育科目
(全学教育機構)インターフェース科目「地域・佐賀学コース」-「地域創成プログラム」、インターフェース 科目「文化と共生コース」-「映像・デジタル表現」プログラム



これまでの活動

■ 佐賀よかとの家(まちなか3号)の企画・設計・工事への参画



佐賀市、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、設計事務所 Open-Aなどと協力しあって、佐賀市呉服町の長崎街道に面する町家(明治中期～昭和初期)を改修し、1階に恵比寿ステーションが入った学生シェアハウスを完成させました。学生たちは、建築・都市デザイン特別講義(まちなか再生プロジェクト)で参画し、タイル貼り、壁塗装、外部テラスづくりなどを行いました。(2013年度)



■ 環アジア国際セミナーの実施(肥前浜宿)

2014年8月、佐賀県鹿島市肥前浜宿の酒蔵や茅葺町家を貸し切って、日・韓・タイ・カザフスタンの建築・都市デザイン研究者や学生が集い、「グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用」について4泊5日で議論しました。学生たちは、肥前浜宿のまちなかの課題を調査し、提案物を作成し地域住民に発表しました。



ワークショップ中間発表・討論



■ サガ・ライトファンタジー・電飾作業(西九州大学との共同作業)



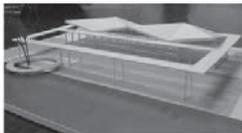
電飾の完成

サガ・ライトファンタジーの電飾作業を通じて、西九州大学の学生と一緒にLED照明を用いた公共空間電飾について学びました。オープニングセレモニーにも参加し、ハロウィンを楽しみました。



■ 公的施設空間の計画支援(小城市)

小城市小城公園等において人々が集い楽しめる小規模公的施設の検討に参画しています。空間資源の把握や課題整理、先進事例の収集を行い、地域や担当部局との連携による計画・設計提案に向けた作業を進めています。



今後の予定

学部専門科目を中心に大学院科目とも連動させながら活動し、国際交流も図りながら地域空間の再生を学んでいます。

後期専門科目でも地域学習を深めるほか、卒業研究でこれらのデータ整理と具体的問題解決に向けた成果作成を行い、地域再生に貢献したいと思っています。

■ II.平成26年度の活動

佐賀市：

■地域イベント(ライトファンタジー)への参画による地域活性化まちづくり活動の体験学習

「[2014 サガ・ライトファンタジー] 6/12 第1回佐大・西九大合同協議会、8/5 佐大・西九大合同オリエンテーション、9/18・22 アイディア会議、10/10 打合せ、10/18・19 電飾設置、10/24・28 最終確認 10/29 点灯式参加」

理工学部都市工学科

- ・建築・都市デザイン特別講義(まちなか再生プロジェクトI)(28名)
- ・建築・都市デザイン特別講義(まちなか再生プロジェクトII)(18名)

連携学生サークル：

√佐大

連携団体：

佐賀市、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが

活動内容：

佐賀市における地域ぐるみの一大イベントであるライトファンタジーに参画し、LEDによるまちなか照明の一部を担当し、その企画・デザインを行う。具体的には、まちなかの店舗や樹木などをLED照明で飾り付けする。西九州大学との共同プロジェクト。

成果(学生教育の観点から)：

- ・樹木や店舗におけるLED照明の方法を知ることができた。
- ・まちなかの公共空間におけるLED照明の限界(できないこと)などを知ることができた。



LED照明のデザイン制作と点灯

- ・佐賀市中心市街地活性化に関わる具体的な取り組み(ソフト事業)を知ることができた。

■まちの間プロジェクト「佐賀よかこの家」を通じた中心市街地における学生の居場所づくり

「12/3佐賀市魅力発掘事業シンポジウム」

理工学部都市工学科

- ・建築・都市デザイン特別講義(まちなか再生プロジェクトII)(6名)

連携団体：

NPO法人まちづくり機構ユマニテさが

活動内容：

佐賀市中心市街地を対象として、学生が行きたい佐賀のまちなか空間創出に向けたまちなか調査を行った成果物を作成し、まちの間3号「佐賀よかこの家」の1階で、住民に対する成果発表とディスカッションを行った。

成果(学生教育の観点から)：

- ・ビジネスプランコンテストに参加して、まちづくりの観点からのビジネスプラン作成に関して学習することができた。
- ・学習成果を「学生からみた佐賀の行きたいまちなかマップ」ならびに「まちなか魅力創出プラン」としてまとめるなど、成果物共有の方法を学習することができた。
- ・地域住民と議論することにより、住民からみたまちの課題を実感することができた。



学生の発表

■コミュニティデザインカフェ

「1/29 第14回コミュニティデザインカフェ」

理工学部都市工学科

・建築都市デザイン演習II (12名)

連携学生サークル:

コミュニティデザインクラブ

活動内容:

木材は、低炭素社会の実現に向けた最も有効な建設材料として着目されている。本コミュニティデザインカフェでは、「木質による建築デザインの未来」と題して、二部構成で講演会と学生作品の講評会を行った。第一部では、佐賀県の重要産業の一つである林業にも資するものとして「流通材を用いた中大規模木造建築の構造デザイン」について稲山正弘・東京大学教授に講演をいただいた。また、稲山正弘教授と建築家赤松佳珠子氏のコラボレーション対談を交えながら、「木質による建築デザインの未来」について語り合った。第二部では佐賀大学3年生の演習課題「地域に根ざす小学校」の発表・講評を行った。大学内外から合計54名の参加があった。

成果 (学生教育の観点から) :

- ・流通材による最先端の中大規模構造設計について学んだ。
- ・PBLによる課題制作の成果物の質を高めることができた。
- ・「地域に根ざす小学校」を課題として、夏休みから、出身小学校および地域の調査、学校建築の企画、計画、設計に取り組んで来た成果をまと

め、その成果物を公開で発表し、学外の建築家や地域の人たちから質問・意見を受けることにより、自分のデザインのよい点や問題点を学内講評とは異なる視点で認識することができた。

鹿島市:

■グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用

「7/31-8/3環アジア国際セミナー」

理工学部都市工学科

・建築・都市デザイン特別講義 (環アジア国際セミナー) (12名)

連携団体:

鹿島市、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会、韓国交通大学(10名)、カザフ建築アカデミー(4名)、タマサート大学(10名)

活動内容:

重要伝統的建造物群保存地区を2地区有する佐賀県肥前浜宿において、日本・韓国・タイ・カザフスタンの研究者および学生が泊まり込みで現地調査を行い、当該地区の歴史的環境の保全活用に向けた提案の作成作業ならびにその成果物の発表を行った。学生たちは英語でのコミュニケーションに苦勞しながらも建築・都市デザイン特有の技術であるスケッチを交えながら、グループ作業で対象地に対するデザイン提案の作成に取り組んだ。



学生の発表の様子



学生のディスカッション風景

成果（学生教育の観点から）：

特に歴史的環境の保全・再生に関して地域に公開した学生提案発表・シンポジウムにおいては、日本・韓国・タイ・カザフスタンの研究者のみならず鹿島市周辺の地域住民を交えた議論を行うことにより、地域課題の理解のために必要な作業を具体的に実践して学習することができた。

観光資源活用に向けた地域密着型の国際交流を図ることができ、佐賀大学と地域社会および行政との強力なコラボレーションによる国際交流も交えた地域課題解決に向けた成果の一端となった。

■肥前鹿島駅前広場の計画

「9月／打合せ・現地視察、11月／事例視察
12月-1月／デザイン提案」

理工学部都市工学科

- ・卒業研究（4名）
- ・修士研究（3名）

連携団体：

鹿島市

活動内容：

地域特性を活かした駅舎・駅前広場の将来像へ向け、JR肥前鹿島駅周辺を対象とした地域拠点施設の計画・デザインの検討の一環で、駅前公衆トイレの計画・デザイン監修に携わった。

成果（学生教育の観点から）：

- ・平成27年3月に竣工予定の肥前鹿島駅前公衆トイレの外観デザインの一部やサイン計画に携わることで、アイデアが実物の施工にどのように反映されるかを実践的に経験することができた。
- ・学内での課題と異なり、素材の選定や納まりなど

技術的な検討についても経験した。

■歴史的町並みにおける住民共創型防災まちづくり（肥前浜宿）

「7/8 住民説明、8/18 区長会説明およびヒアリング、9-12月 現地調査」

理工学部都市工学科、知能情報システム工学科、電気電子工学科

- ・卒業研究（4名）
- ・修士研究（3名）

連携団体：

鹿島市、NPO法人水とまちなみの会

活動内容：

歴史的町並みの多くは、狭隘な道路添いに木造の伝統的建造物が建ち並び、通常の防災は景観保存上好ましくなく、災害に脆弱である。また、高齢者等の災害時要援護者も多く居住し、住民の意識や行動力も十分でない。そこで、その歴史的町並みにおける住民共創型防災まちづくりに資するため、佐賀県鹿島市肥前浜宿を対象に、ICT利活用型防災デザインに関する研究活動を行っている。なお、この取り組みは、本年度よりJSPS二国間交流事業（相手国韓国）に採択された。

成果（学生教育の観点から）：

- ・歴史的町並みである対象地区における防災性能上の問題点について、住民説明会、ヒアリングなどを通して理解することができた。
- ・現地調査を通して、建物倒壊による避難経路の閉塞などの問題を理解することができた。
- ・歴史的町並み保存における防災という観点について、理解を高めることができた。



外観デザイン提案



現地視察の様子

嬉野市：

■新幹線敷設に伴う温泉新駅周辺まちづくり

「11/12 事前打ち合わせ、11/27 嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会準備会への参加と議論、2/6 現地見学および嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会への参加と議論」

工学系研究科都市工学専攻
・都市工学コロキウム (1名)

連携団体：

嬉野市

活動内容：

現在工事が進行している長崎新幹線の新駅（嬉野温泉駅）周辺区画整理事業区域のまちづくりの委員会を傍聴し、これからの新駅周辺整備について勉強した。

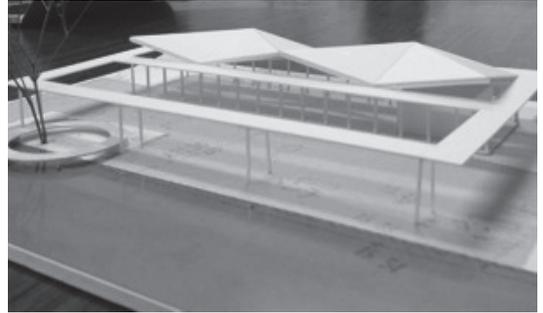
成果（学生教育の観点から）：

- ・まちづくりの委員会がどのように勧められるのか、また、その中で具体的に整理しておくべき事項などを学習することができた。
- ・現実のまちづくりプロジェクトについて理解を深めることができた。

小城市：

■公的施設空間の計画支援

「9月 現地との打合せ／現地調査
10月～ 先進地調査
11月～ 計画案検討
3月 提案の取りまとめ」
理工学部都市工学科4年生 (5名)



施設検討案

連携団体：

小城市

活動内容：

小城市小城公園等において人々が集い楽しめる小規模公的施設の検討に参画した。空間資源の把握や課題整理、先進事例の収集を行い、地域や担当部局との連携による計画・設計提案に向けた作業を行った。

成果（学生教育の観点から）：

- ・具体的な地域の公的施設の要求やその計画課題、また同様の他の先進事例について学ぶことができた。
- ・実際に調査や打合せに参加し、一般の演習等での取り組みとは異なり、地域の当事者に提案することの難しさ等を理解した。



打合せの様子

■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連する主な学部専門科目

- ・理工学部：図学（三島伸雄・瀧上貴由樹），基礎設計製図演習（後藤隆太郎・田口陽子・瀧上貴由樹），建築都市デザイン演習Ⅰ（後藤隆太郎・田口陽子・高木正三郎・瀧上貴由樹），建築都市デザイン演習Ⅱ（三島伸雄・平瀬有人・中大窪千晶・瀧上貴由樹、高木正三郎），デザイン手法分析（平瀬有人・三島伸雄・後藤隆太郎・田口陽子・小島昌一・中大窪千晶・瀧上貴由樹），建築・都市デザイン特別演習Ⅰ（三島伸雄），地域デザイン特別演習（後藤隆太郎・田口陽子），建築環境設計特別演習（小島昌一・中大窪千晶）建築・都市デザイン特別講義（三島伸雄・後藤隆太郎・田口陽子・平瀬有人・瀧上貴由樹）

■ IV. 関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<教員>

（論文等）

- ・三島伸雄：Nobuo Mishima, Naomi Miyamoto, Yoko Taguchi, Keiko Kitagawa, Analysis of current two-way evacuation routes based on residents' perceptions in a historic preservation area, International Journal of Disaster Risk Reduction VOL.8, 10-19, 2014.6（講演）
- ・三島伸雄：Prof. Nobuo Mishima, Special Lecture: An analysis of evacuation routes for a traditional town considering its street blockade. International Symposium on Lowland Technology. 佐賀大学、2014年9月29日
- ・三島伸雄：「実験住宅まちの間の取り組み」、ネットワーク活動推進会議、佐賀市民会館、2015年2月23日（報告書等）
- ・平瀬有人・三島伸雄：環アジア国際セミナー[日・

韓・タイ・カザフ]報告書、2015.1.

- ・三島伸雄・瀧上貴由樹：鹿島市民会館（仮称）建設基本構想・基本計画、鹿島市、2015.3.（受託研究）
- ・平瀬有人：「JR肥前鹿島駅前公衆トイレ新築工事デザイン監修」2015.1 私家版
- ・後藤隆太郎・田口陽子：「（仮）小城公園おもてなし茶屋整備構想の策定に向けた調査研究」2015.3.（受託研究）
- ・後藤隆太郎・田口陽子：「ありたそだち ヒト・モノ・場所の相互連携型デザイン」2015.2. 私家版

<学生>

（国際会議・学会等発表）

- ・日高祐太郎：Yutaro Hidaka, Nobuo Mishima, Hiroshi Wakuya, Yasuhisa Okazaki, Yukuo Hayashida, Keiko Kitagawa, Sun-gyu Park, Yong-sun Oh, Probability of street blockade for disaster prevention design of a traditional town with local heritages. Proceedings of 1st International Symposium on ICT-based Disaster Prevention Design, 35-37, 2015.2.（卒業研究）
- ・古賀智之：「地域イベントへの参画による学生教育プログラムに関する研究ーライティングプロジェクトに焦点をあててー」、平成26年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・垂永晶憲：「歴史的町並みにおける団体受け入れ民宿事業の導入可能性についてー鹿島市肥前浜宿における社会実験ー」、平成26年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・日高祐太郎：「直下型地震時の伝統的建造物倒壊特性を考慮した歴史的町並みの道路閉塞確率」、平成26年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・馬渡忠明：「近隣住民の苦情からみた公園内迷惑行為と公園立地環境との関係ー佐賀市住区基幹公園を中心にした現状分析ー」、平成26年

度佐賀大学工学部都市工学科卒業論文

- ・松本勝治：「蓄冷効果を活かした微気候形成に資する立体駐車場内部空間の熱環境把握」、平成26年度佐賀大学工学部都市工学科卒業論文
- ・山之上雄上「佐賀平野における地中熱利用のための土の熱物性基礎研究」、平成26年度佐賀大学工学部都市工学科卒業論文
- ・山口拓人：「現代日本における小規模公園建築の外観表現」、平成26年度佐賀大学工学部都市工学科卒業論文
- ・溝田早希：「有明海沿岸平野部における草屋根葺きの技術・材料・担い手の現状と課題」、平成26年度佐賀大学工学部都市工学科卒業論文
- ・仲浩慶：「記憶を辿る坑」、平成26年度佐賀大学工学部都市工学科卒業制作

アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療 及び機能性食品の開発プロジェクト



ストレス評価法の開発に関する実習

■ I. プロジェクト概要

■ 事業実施主体：

アグリ創生教育研究センター、医学部

■ 連携部局：文化教育学部教育実践総合センター、農学部応用生物科学科生物資源開発学講座

■ 取り組む地域課題：

- ・アグリ医療やセラピー教育の開拓と普及
- ・機能性食品の開発とそれに関わる人材の育成

■ 連携プロジェクト：H、K

■ 連携自治体等：佐賀市

■ 教育カリキュラム：

- ・遺伝資源フィールド科学実習

■ 主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

佐賀市：

- ・アグリ資源の新しい活用を図るための人材育成教育プログラム作成
- ・ほ場のユビキタス化による、障がい者、家畜、支援者等の行動の遠隔追跡、モニタリング等の科学的実施



実施代表者

上埜 喜八

(農学部・准教授)

プログラムの目的

佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターでは、農業フィールド資源活用による動物介在療法及び園芸療法（「アグリセラピー」）の構築プロジェクトを立ち上げ、これまで食料生産手段として利用してきた家畜や作物栽培を、障害等を持つ患者様のケア手段に応用することを目的とし、農学部、医学部、文化教育学部と共同でその可能性を探るため、研究教育の企画・推進を行っています。

アグリ創生教育研究センター・大学院医学系研究科 森田 由佳 理学療法士（佐賀大学農学部2004年卒）

主な関連科目

◆学部専門科目
 (農学部)「遺伝資源フィールド科学実習」担当:上笠喜八他、「フィールド科学総合実習」担当:上笠喜八、松本建一、「資源循環フィールド科学実習」担当:上笠喜八他、「植物代謝解析学実験・II」担当:石丸幹二
 (医学部)「医療入門」担当:堀川悦夫他、「生活医療福祉学」担当:堀川悦夫他



プロジェクト

これまでの活動

<動物介在療法とは>

動物を飼うことや日常的にふれあうことが、身体と心のストレスを和らげるなどのよい影響を与えることが多くの研究で明らかになっています。これらの効果を医療や福祉の場に活用したものが「動物介在療法」です。



<園芸療法とは>

園芸療法とは、園芸を手段として心身の状態を改善することです。園芸療法の目的は、植物を育てることによって、身体的、精神的、社会的に良い状態を求めたりそなわれた機能を回復することです。



<アグリセラピーの評価方法>

アグリセラピーの効果を示すために、心理尺度を用いた評価(POMS)や、生理的指標として血圧、心拍数、自律神経変動測定である心拍変動解析、そして内分泌系ストレスマーカーとして唾液中のアマラーゼの測定を行っています。

また近年、人の心や体を支配する部位である脳の活動を直接的かつ非侵襲的、そしてリアルタイムに捉えるための技術、装置の開発が進み、近赤外分光法(Near Infrared Spectroscopy: NIRS)

といった手段が注目されつつあります。NIRSは、近赤外光を用い脳の血液中の酸素量を測定する方法です。動物や植物に触れあうことによって脳のどの部位が活発になるのかを測定することができます。



<実験プロトコルの一例>

唾液採取	レスト	タスク①(60秒)	レスト	タスク①(60秒)	レスト	タスク①(60秒)	唾液採取	
レスト	唾液採取	レスト	タスク②(60秒)	レスト	タスク②(60秒)	レスト	タスク②(60秒)	唾液採取

今後の活動予定

- ・セラピーの方法拡大、評価として脳活動の分析
- ・アグリセンターをセラピーの場として活用(学生や地域住民の利用促進)



動物介在療法に関する効果の判定

■ II.平成26年度の活動

佐賀市：

■アグリ医療開発効果の判定

「6/26、7/10、17、24、10/7、10、14、21、1/6、9、13、20、2/3 ストレス評価法の開発に関する実習」

農学部生物環境科学科資源循環生産学コース

・資源循環フィールド科学実習(6名)

・フィールド科学基礎実習II(30名)

農学部応用生物科学科

・フィールド科学基礎実習II(31名)

活動内容：

園芸療法や動物介在療法に関する講義及び各療法の体験、様々な評価法による効果の判定を行った。

成果(学生教育の観点から)：

アグリ医療に関する取り組みについて教育に活用した。

以下の演題で発表を行った。



野菜の収穫体験



アグリセンターの現場視察

- ・佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターにおけるアグリ医療関連の取り組み。○森田由佳^{1,2}(1.佐賀大学農学部、2.佐賀大学大学院医学系研究科)

■発達障害児支援プログラム開発

「8/29発達障害児との農業体験・動物とのふれあい体験」

・文化教育学部(4名)

・農学部生物環境科学科資源循環生産学コース(2名)

活動内容：

アグリセラピーの一環として、特別支援学校の生徒(発達障害児)を対象に、家畜とのふれあい体験、野菜の収穫および種まき体験を実施した。

成果(学生教育の観点から)：

参加学生は、セラピーの対象となる子どもたちと共に活動を行うことで、発達障害児支援のための新たな学習題材の選定や支援プログラム開発に向けた貴重な体験をした。

■作業療法学専攻学生の現場視察と講義の実施

「10/4・11/29 西九州大学プロジェクトH連携事業(アグリセンター視察、講義)」

西九州大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻(2年生)

・基礎作業学演習IV(園芸)(延べ83名)

活動内容：

園芸療法の授業の一環として、西九州大学の学生が参加し、アグリセンターの現場視察、動植物との触れ合い体験を含む現場講義を行った。

成果（学生教育の観点から）：

参加学生は、アグリセンターを利用した園芸療法ガーデン造成設計図を作成し、障害者を対象とした医療的なりハビリテーションにつながる可能性について検討した。

■福祉施設との取り組み

①10/20福祉施設事業者との意見交換

②11/10福祉施設事業所視察

連携団体：

①社会福祉法人 若楠、グリーンファーム山浦、みのり福祉会、スローWORK大和

②社会福祉法人 若楠、グリーンファーム山浦、株式会社 どんぶり村

活動内容：

①佐賀県内の障害者福祉施設事業者と就労支援事業における協力体制について意見交換を行った。

②佐賀県内の福祉事業所を視察し、事業の実施内容を確認した。

成果（学生教育の観点から）：

①就労支援施設での活動に学生ボランティアの参加が可能であり、実際の現場を体験できる体制が構築可能であることを確認した。

②就労支援事業の現場を視察し、学生ボランティ

アや農業における技術支援などの協力体制における詳細な検討を行った。

■アグリセラピーの展開を目指した高大連携への基盤づくり

「5/15 太良高校での認知症サポーター養成講座開催」

連携団体：

佐賀県立太良高校（主担当 同校教諭 南 一也氏）

活動内容：

佐賀県、佐賀大学などが共同で行っている産学官連携協定事業「認知症総合サポート事業」における認知症サポーター養成講座を同校で開講し、アグリセラピーについて紹介を行った。その過程で、同校校長をはじめ関係する教員と協議を行い、アグリセラピーの利用対象者として、発達障害を有する生徒の見学や実習の可能性を検討した。

成果（学生教育の観点から）：

発達障害を有する生徒のアグリセンターでの実習や訓練の可能性が複数例においてみられることが明らかとなったほか、生徒自ら動物とのふれあいを希望する例もみられることが明確となった。具体的例として、書字障がいを持つ生徒のアグリセンターでの訓練計画の策定が開始された。検討中での問題点として、太良高校及び生徒の居住地からアグリセンターへの移動における保護者の理解・了承と具体的移動方法の確保が必要である。

■医学部医学科におけるアグリセンターにおける実習の実施

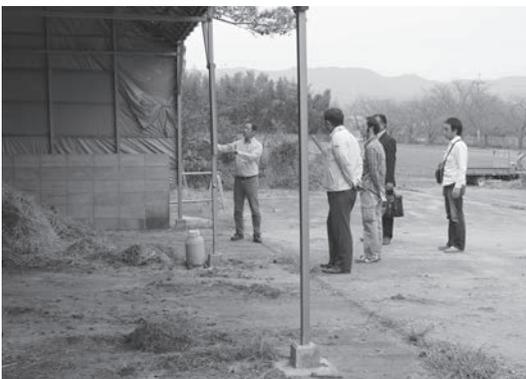
「平成26年12月から1月 週1回 計4回」

連携団体：

佐賀大学医学部医学科106名

活動内容：

医療心理学・生活と支援技術合同実習として、医学科1年生が4グループに分かれて「鏡映描写にみられる大脳半球間の機能的転移」をテーマにアグリセンターに於いて実習を行った。実習では、鏡映描写装置を持ち込み、データ取得と分析を目的とし



県内の障害者福祉施設事業者との意見交換

た。実習開始前にはアグリセンターの見学の時間を設けた。

成果（学生教育の観点から）：

動物介在療法、園芸療法への理解と、農村や山村での往診や地域医療の展開を想定しての、現場におけるデータ収集や分析の問題点について理解を深めることができた。

■アグリ医療における広報活動

「7月～8月 子ヤギの名付け親募集」

活動内容：

アグリセンターで誕生した子ヤギの名付け親を学内、佐賀県内の学校、施設、事業所などに広く募集し、選考により名前を決定した。

成果（学生教育の観点から）：

学内外にCOC事業とアグリセラピー開発プロジェクトを周知することができた。特に学内の認知度が上がることで、全学的な学生教育への取り組みにつながった。

子ヤギの名付け親募集チラシ

■機能性食品に関する研究発表

「11/15 茶に関する学会、研究会の開催」

農学部応用生物科学科

- ・植物代謝解析学実験I (4名)
- ・植物代謝解析学実験II (4名)

連携団体：

佐賀大学茶の文化と科学研究所、佐賀・茶学会

活動内容：

茶に関する研究発表会で、佐賀大学農学部および西九州大学の学生が参加し、機能性食品に関する研究発表を行った。

成果（学生教育の観点から）：

以下の3演題で学生が口頭発表を行った。プレゼンテーションのみでなく、地元企業との連携による機能性食品開発研究に携わる貴重な経験をした。

- 1) ヒシ茶の機能性化粧品素材としての有用性、
○大曲希実、安田みどり、浜島弘史、柳田晃良
(西九州大学・健康栄養学部)
- 2) 茶の発酵とポリフェノール成分、○月足明紀、
山木隆徳、梅井聡子、石丸幹二(佐賀大学農学部)
- 3) 日本酒をベースとしたお茶リキュール ○山田和¹⁾、横田満郎²⁾、田尻泰浩³⁾、後藤巖寛⁴⁾、佐藤三郎⁴⁾、石丸幹二¹⁾ (1佐賀大学農学部、2横田茶園、3松浦一酒造株式会社、4佐賀大学産学・地域連携機構)

■Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連する主な学部専門科目

・農学部：

資源循環フィールド科学実習(上桮喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一)、フィールド科学基礎実習I(上桮喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一)、フィールド科学基礎実習II(上桮喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一)、実験生物環境保全学(上桮喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一ほか)、資源循環生産学概説(上桮喜八、江原史

雄、福田伸二、松本雄一ほか)、科学英語(上桵喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一ほか)、資源循環フィールド科学演習I(上桵喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一)、資源循環フィールド科学演習II(上桵喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一)、卒業研究(石丸幹二、上桵喜八、江原史雄、福田伸二、松本雄一ほか)、植物代謝解析学実験I・II(石丸幹二)

食料と生活I

- ・医学部: 医学科 医療心理学・生活と支援技術合同実習(堀川悦夫、坂本麻衣子)

■関連するインターフェース科目

「生活と科学コース」-「食料と生活」プログラム

- ・食料と生活I(食料の生産と課題)

担当: 江原史雄、福田伸二、松本雄一、鄭紹輝(農学部)

■IV.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<教員>

(論文等)

- ・Rahmawati S. I., K. Ishimaru, De-X. Hou, N. Hayashi: Antioxidant activity and phenolic content of mistletoes extracts following high-temperature batch extraction. Food Science and Technology Research, 20, 201-206, 2014
- ・Nishikawa. K., K. Ishimaru, T. Fujioka, M. Goto, Y. Imahori, N. Tanaka: Secondary metabolites in the rhizomes of diploid and tetraploid gingers (Zingiber officinale Roscoe). Food Preservation Science, 40, 65-69, 2014
- ・Rahmawati S. I., K. Ishimaru, De-X. Hou, N. Hayashi: Antioxidant and anticancer activities effect of a tea mistletoe prepared by high-temperature. Extraction with cyclodextrin. Bulgarian Journal of Agricultural Science, 20, 818-823, 2014
- ・中山秀幸、中園陽子、八ヶ代一郎、石丸幹二:

玄徳茶の成分解析, 日本食品化学学会誌、21、195-198, 2014

- ・石丸幹二: 佐賀大学における食の取り組み. 栄養教諭、2014/Spring、70-75, 2014
- ・石丸幹二: ポリフェノール誘導体及びその産生方法, 特許5641494号, 2014 (講演等)
- ・石丸幹二: 講演「微生物発酵と茶成分」、佐賀県製菓協会技術者研究部研修会, 2014.4.19
- ・石丸幹二: 講演「微生物制御発酵茶とテアテノールの機能性」、徐福フロンティアラボ研究会, 2014.7.25
- ・石丸幹二: 講演「ポリフェノール研究の今とこれから」、日本生薬学会第61回年会シンポジウム講演, 2014.9.13
- ・石丸幹二: 講演「新しい茶製品」、忠北大学(韓国), 2015.1.30

<学生>

- ・山田和: 「日本酒をベースとする紅茶リキュールの開発」、平成26年度佐賀大学農学部植物代謝解析学分野 卒業論文
- ・森田由佳: 「佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターにおけるアグリ医療関連の取り組み」、コミュニティ・キャンパス佐賀アクティブ・プロジェクト佐賀大学FD・SD研修会
- ・江藤咲月: 「ヒトとの接触時期がトカラヤギの親和性構築に及ぼす影響」、平成26年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野 卒業論文
- ・岡部 誠: 「成ヤギの記憶力の検証」、平成26年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野 卒業論文
- ・陣内さくら: 「牛群内における社会的順位に影響する要因の解析」、平成26年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野 卒業論文
- ・山西可菜: 「異なる温度環境における日陰の有無がウシのストレス状態に及ぼす影響」、平成26年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野 卒業論文

■地域志向教育研究経費採択事業一覧

平成26年7月「地(知)の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」の取り組みとして地域志向教育研究経費の公募を行いました。本経費は、地域を志向する教員の教育・研究・社会貢献活動を支援し、大学全体の地域志向型教育研究を活性化させるための経費で、以下の15件が選定されました。

■各事業の内容と成果

1. 柿原 奈保子/医学部看護学科 (A)

「佐賀県内における地域医療を支える外国人看護師の人材育成(インドネシア人看護師の資格取得を含む国際交流事業)」

(目的及び計画)

鹿島市の中核病院で研修を受けている6名のインドネシア人看護師の学習支援を行い日本の看護師免許取得をサポートする。また、6名のインドネシア人看護師に看護学科の国際保健看護論等で、海外における看護制度や看護師の役割について講義してもらい、地域医療の向上と学生の国際的な視野の向上を目指す。平成26年7月下旬から看護学科の教員1名、および海外に留学経験のある大学院生1名が、鹿島市の中核病院で毎週1回程度(1回につき3時間程度)学習支援を実施する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

外国人看護師候補生への学習支援は、各受け入れ施設の裁量に任されており、教員が系統的に教育する取り組みは全国的にも初めてのことであった。平成26年7月より、県内で受け入れている外国人看護師候補生(インドネシア人)に対して看護師国家試験の受験勉強サポートを実施した。候補生らは祖国での看護師免許は持っているが、日本の受験のためには不足している部分が多くあり、効率的に学習を進めていく支援が必要な状況であった。平成27年2月の国家試験で初合格を目指している。

(成果物)

・経済連携協定(EPA)による外国人看護師候補生に対する新たな学習支援、医学書院「看護教育」P156～

159, Vol.56, No.2, 2015

2. 中村 隆敏/文化教育学部 (A)

「デジタル動画活用・グローバル連携による観察・対話を通じた佐賀市中心市街地での課題発見および課題解決モデルの共創」

(目的及び計画)

佐賀市中心市街地をフィールドに、デジタル動画を用いた観察及びそのデジタルデータの共有と分析を基本としたビデオエスノグラフィーを遠隔地間国際連携で実施し、3日間の街中ワークショップでまとめて成果を発表する。国内外で汎用手法となりつつあるデザイン思考およびビデオエスノグラフィーの導入により、ローカル(中心市街地周辺)を対象フィールドとしつつ、遠隔地間(国内外)の多様な背景・視点をもつ学生間による価値共創を実現する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

研究により、デザイン思考にはバウンダリーオブジェクトとしての機能が認められ、また、デザイン思考プロセスが包含する間身体性を基礎に相互主観性が形成され、それに基づく内発的な共創の開始が確認された。これらから、デザイン思考はアクティブラーニングや共創力を求めるインターフェース科目に適した方法論であることが示された。教育では、佐賀市中心市街地での課題発見・解決に取り組み、終了時には学生の中心市街地への関心・愛着が高まった。課題解決の実践は、次年度、学生自身が挑戦する。



デザイン思考プログラムでのワークショップ開催風景(旧古賀家)

(成果物)**【論文】**

・松前あかね, 中村隆敏, 堀良彰, 松前進: 「インターフェースにおけるデザイン思考の共創メディア性に関する考察—学際・国際・地域連携による共創—」, 佐賀大学全学教育機構紀要 vol3, 2015.3

【発表】

・松前あかね, 中村隆敏, 堀良彰, 松前進: 「地方型イノベーションエコシステムにおけるデザイン思考の役割」イノベーション教育学会年次大会口頭発表, 2015.3

【招待講演】

・松前あかね: 「知識共創におけるデザイン思考の活用」, 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科セミナー, 2015.2

3. 山田 直子/国際交流推進センター (A)**「地域活性化コミュニティ・エンゲージメントプログラム」****(目的及び計画)**

本学学生及び留学生が、佐賀市山間部(三瀬村)のコミュニティのニーズに応じた活動に地域住民と共に従事し、地域の伝統を学びながら地域社会の抱える課題とその解決方法を探る。本年度は、学生が継続的にコミュニティで活動し、地域活性化について住民と学生が共に考えるためのフレームワーク作りを行い、平成27年度より正規のカリキュラムとして、サービスラーニング型の日本人学生と留学生による協習授業「地域活性化コミュニティ・エンゲージメント」科目(インターフェイス・異文化交流)としての開講を目指す。

(教育・研究・社会貢献における成果)

地域住民との活動により、学生と地域住民との関係構築のプロセス、地域が求める活動、学生の学びの質と成果を分析。特に、留学生と日本人学生、留学生と地域住民の関係構築と共助による豊かな学びを実証的に研究することができた。また、学生にとって、学外研修で地域の現状を学ぶことは、大学で学んだ知識をどのように実社会に還元するかを考える重要な教育である。さらに、高齢化・過疎化が進む集落での若者の活動は

「地域のエネルギー」となっており、若者のアイデアを得たいという地域ニーズにもマッチした。

4. 徳田 誠/農学部・応用生物科学科 (B)**「多良山系における希少野生動物の生態に配慮した地域環境保全」****(目的及び計画)**

多良山系に生息する、ほ乳類では佐賀県で唯一の天然記念物であるヤマネの詳細な分布や生態について、農学部応用生物科学科に所属する学生が多良山系における自然保護活動に携わる佐賀自然史研究会の会員らとの対話を通じて共同して調査を実施する。3年間で多良山系の佐賀県側全域における生息状況および生態を明らかにすることで、自然保護と地域の産業活動との両立を可能にする環境保全のあり方を模索する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

佐賀県内においては平成11年にヤマネの生息が初めて確認された後、生息情報は得られていなかった。本研究において、佐賀県側におけるヤマネの詳細な生息状況を調査した結果、15年間ぶりにいずれの地点でもヤマネの生息を確認できた。調査は、佐賀自然史研究会(副島和則会長)の方々や学生が共同で取り組んだことにより、学生の環境保全に関する意識が高まり大きな教育成果が得られた。また、平成26年10月には、外部講師を迎えてヤマネやカモシカに関連した公開講演会を開催し、学内外の35名の方に参加いただいた。



県内で15年ぶりに生息が確認されたヤマネ

(成果物)

【記事掲載】

・プレスリリース (2015年1月27日) 天然記念物 (佐賀県 絶滅危惧1類) ヤマネの佐賀県内での生息を15年ぶりに確認。(1月27日 STSニュース、1月28日 佐賀新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞において報道)

【研究発表会】

・徳田 誠・中嶋ひかる・木下智章・副島和則・安田雅俊 (2015年2月7日) 多良山系および脊振山系東部の佐賀県側におけるヤマネの分布状況。佐賀自然史研究会 第22回総会・研究発表会 (佐賀大学)

5. 宮本 英揮／農学部・生物環境科学科 (B)

「農業ICTを活用した環境保全型低平地農業システムの構築」

(目的及び計画)

有明海沿岸低平地農業の高度化を図るため、時間領域透過法(TDT)と呼ばれる最先端の土壤環境監視技術を利用して農地情報を取得し、それに基づく環境保全型低平地農業ICTの確立を試みるとともに、開発した技術を効果的に運用できる農業ICT人材の育成を目指す。平成26年度は、一連の研究の素地となる、TDTを利用した多項目の土壤環境監視システムの構築達成を目標に卒業研究の一環として実施する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

TDTを用いて農地環境情報をリアルタイムで取得し、それらを指標とした低平地土壤の新たな管理方法を提案することに成功した。教育においては、本学実習水田に前述のシステムを設置し、「実験生物環境保全学」履修者に対して、監視システムおよびモニタリングデータの活用法に関する講義・実習を実施することで、有明海沿岸低平地土壤および地理的・水理条件の特殊性を考慮した低平地土壤の診断・管理手法の学習機会を設けた。また、東日本大震災津波被災農地の除塩研究プロジェクトにTDT技術を提供し、有明海沿岸低平地と類似した水理条件下にある被災農地の再生支援に取り組んだ。

(成果物)

【学会発表】

・吉田莉恵, 渡邊真子, 平嶋雄太, 宮本英揮, 重粘土水田における土壤水分モニタリング, 土壤物理学会, 仙台市, 2014. 10.
・Masaaki Uemura, Hideki Miyamoto, Markus Tuller, Application of Time Domain Transmissiometry for Measurement of Moisture Content and Void Ratio in a Heavy Paddy Clay Soil, ASA meeting, Long Beach, 2014. 11."

6. 李 應喆／農学部・生物環境科学科 (B)

「ラムサール条約と干潟文化の保存・活用・継承に関する生態人類学的研究」

(目的及び計画)

ラムサール条約の重要な視点であるワイズ・ユースに関連して、干潟域の伝統漁撈や食文化に関わる干潟文化の保存・活用と、その継承のあり方について、学生参画型の調査研究を実施し、その成果を公開講座や有明海一市民の科学講座、まえうみ市民の会等で報告をして地域に還元する。また、その過程において学生参画型の教育を推進し、次年度以降は、学生参画による保存・活用・継承のための企画を立案し、自らの実践活動を通じた地域への貢献を進める。

(教育・研究・社会貢献における成果)

谷津干潟と荒尾干潟、及び条約登録を目指す三番瀬干潟と有明海の鹿島地域等での調査を実施し、いずれの地域でも伝統漁撈や干潟文化の保存・活用と、その継承のあり方について認識が高い事が確認できた。また、インターフェース科目「有明海学Ⅰ」での干潟・湿地の保全と活用についての講義、及び「地域環境の保全と市民社会Ⅰ」での「うなぎ塚」復元プロジェクト(鹿島市七浦)への参画から、七浦地区振興会との協働によるワイズユースに基づくエコツーリズム振興への展開について検討を開始。調査地の谷津干潟と荒尾干潟におけるワイズユースの取り組みは、条約登録を目指す鹿島地域に資料として提案する。



「うなぎ塚漁」を体験

(成果物)

・講演-五十嵐勉・李 應喆：ラムサール条約と鹿島-順天湾に学ぶ、まえうみ市民の会8月例会、2014年8月18日、むつごろう館（佐賀大学干潟環境学習サテライト）

7. 鈴木 智恵子／医学部看護学科 (C)

「看護学生による小児アトピー性皮膚炎予防のためのスキンケア教育」

(目的及び計画)

小児のアトピー性皮膚炎は、生後間もない時期から保湿などの適切なスキンケアを行うことで、発症率を3割にまで低減することができることが明らかになったが、正しいスキンケアの方法が浸透していない現状がある。そこで、看護学生をスキンケア教育の講師として養成後、乳幼児の母親を対象として教育を行い、母親の声に反映したスキンケアマニュアルを作成する。次年度以降は、地域や年齢層も拡げ、学生講師によるスキンケアマニュアルを用いたスキンケア教育による啓発活動を行う。



スキンケア教室開催風景

(教育・研究・社会貢献における成果)

公募で集まった学生10名にスキンケアの方法の講義と演習を行い、ともにスキンケア教育プログラムを作成。2月から佐賀市内の公民館等3か所でスキンケア教室を開催し、親子20組以上に対して講習を行い、正しいスキンケアの知識と方法を提供した。実際に地域の母子と関わることで、学生の地域貢献へのモチベーション向上へとつながり、今後も教室を継続して開催することで、地域課題解決に向けたアクティブラーニングになると思われる。公民館等からは、すでに次年度の開催要望があり、さらなる社会貢献につながるものと考えられる。

8. 戸田 順一郎／経済学部 (D)

「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化に関する調査研究」

(目的及び計画)

自治体における公共施設の維持・運営方法について、小城市牛津町にある保健福祉施設および隣接の都市公園の利活用策、ならびにそれらをいかにした地域の今後のあり方について、3年生のゼミを中心に調査研究を実施する（課題解決型学習(PBL)）。研究成果は、小城市（市役所もしくは住民）もしくは公開講座において学生による報告を行う。平成27年度は、今年度の取り組みの成果および経験を活かし、平成26年度同様に自治体から地域課題に関する研究テーマを受託し調査研究を実施する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

小城市より提案されたテーマ「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」について、演習（3年）において調査研究（課題解決型学習）を実施した。具体的には、当該施設・地域についての分析（地域住民・施設利用者へのヒアリング・アンケート、地元小学校でのワークショップ、市職員とのワークショップ等）、先行研究・関連制度に関する文献調査、県内外の先進事例に関する文献・現地調査を行い、同市役所にて報告会を行った。本調査研究は、小城市役所の「アイル資源磨き」構想

の一環として位置づけられている。

（成果物）

- ・研究成果報告会（12月11日，小城市役所大会議室A）
- ・『コミュニティ・キャンパス佐賀 プロジェクトD報告書 2014年度』（2015年3月）

9. 檉澤 秀木／経済学部経済法学科 （D）

「地域防災と自治体」

（目的及び計画）

地方自治体には防災対策・計画の策定が義務付けられており、東日本大震災の発生以降は、地域社会の変容によりさらに緻密な防災対策・計画の策定とその実効性が求められるようになった。そこで、学部の演習を主体に、既存の文献資料の読み込みと論点整理、予備調査を実施し、自治体における地域防災計画策定の現状調査と課題探究、それらをきっかけとした新たな町づくりのあり方・方向性の萌芽を探る。平成27年度以降は、上記の継続と対象自治体に関する調査票等の作成、まとめと公開講座での学生による研究発表を行う。

（教育・研究・社会貢献における成果）

原子力安全協定」及び「原子力防災計画」について、必要な資料を収集し、研究を進めた。また、演習（4年）において、学生が各地の「原子力安全協定」について調査し、それを卒業レポートにまとめて発表会で発表した。演習（3年）においては、学生が唐津市役所で、市の担当者から「唐津市原子力防災計画」に関する説明を伺った。

10. 福森 則男

／医学部地域医療支援学講座 （E）

「地域基盤型実習が医学生の地域医療に対するモチベーションに与える影響についての検討」

（目的及び計画）

佐賀県内の離島及び山間部の保健・福祉・医療の現場での地域基盤型実習に参加することで、地域医療に対する医学生のモチベーションが実習前後でどのように変化するかを質問紙により調査・研究する。また、初回調査した学生については毎年度

質問紙に回答してもらい、経年的にどのように変化するかについても縦断的に研究し、学生の地域志向性の変化に影響をあたえる要因について検討する。次年度以降も同様の実習の開催と質問紙調査を行う。

（教育・研究・社会貢献における成果）

地域医療に対する考え方やモチベーションに関するアンケートの集計結果から、地域医療実習による参加型の学習は、医学生1～4年生のいずれの学年でも、地域医療に対する理解を深め、地域医療に従事するモチベーションを高めることがわかった。今後、大学のカリキュラム作成においても実習等の体験型学習を積極的に取り入れるよう反映したい。また、医学生が実習により地域の医療機関や自治体に関わることで、医療機関内部で日常業務を振り返る機会や、教育をする視点が生まれるなど相乗効果があった。

11. 平瀬 有人

／工学系研究科都市工学専攻 （F）

「地域の再生に向けた地域拠点施設の計画・デザイン」

（目的及び計画）

JR肥前鹿島駅周辺を対象とし、地域の再生に向けた地域拠点施設の計画・デザインを検討し、域特性を活かした駅舎・駅前広場の将来像へ向け、駅利用者の利便性向上や市民の交流スペースの活用提案、交通機関の整備方針などを検討する。平成26年度には駅舎・駅前広場整備に先行して、鹿島市の駅前トイレの改修工事を予定しており、今回は将来の駅舎・駅前広場整備につながるような計画・デザインを図面・CG・模型などにより検討するものである。次年度以降は駅舎・駅前広場整備の計画・デザインに携わる予定である。

（教育・研究・社会貢献における成果）

平成27年3月に竣工予定のJR肥前鹿島駅前公衆トイレの計画・デザイン監修に携わった。学生が共同し、駅前公衆トイレの外観デザインの一部やサイン計画に携わることで、アイデアが実物の施工

にどのように反映されるかを実践的に経験することができた。また、学内での課題と異なり、素材の選定や納まりなど技術的な検討についても経験した。駅舎建替の具体的な計画が未定な中、公衆トイレを可変可能なデザインとして提案することで、将来、デザイン的に統一感のある駅前広場となるよう、景観に配慮した計画・デザイン監修ができた。

(成果物)

- ・平瀬有人：「JR肥前鹿島駅前公衆トイレ新築工事デザイン監修」2015.1 私家版

12. 北垣 浩志／農学部生物環境科学科 (G)

「低ピルビン酸酵母を使った低アルコール日本酒の醸造試験」

(目的及び計画)

当研究室で育種した低ピルビン酸清酒酵母を使った低アルコール清酒の瓶内二次発酵時に、この酵母がどのような挙動を取るか、どのような香味が生成されるかを調べ、学生も蔵で製造されているところに立会い、商品化への参考とする。また、これらの成果を公表することで、佐賀県及び全国で低アルコール清酒やスパークリング低アルコール清酒の製造技術の向上、佐賀県の新たな独自ブランドの育成、日本全体及び世界における日本酒という日本の伝統文化の保護に波及するよう努める。

(教育・研究・社会貢献における成果)

佐賀県の天山酒造株式会社の製造している低アルコール清酒の製造に使うための清酒酵母の育種を行い、初めて清酒酵母の優れた形質を受け継ぎつつ、低アルコール清酒用や吟醸酒などそれぞれの用途に応じた清酒酵母の育種が可能になった。学生教育においては、地元の酒造会社の見学会を実施し、自身の研究が地域企業に生かされていることや製造現場を知ることができた。さらに、学生は地域の醸造企業に専門技術を身に付けて就職している。また、育種した酵母は日本醸造協会より全国に頒布され、全国の多くの酒造蔵で使用されており、日本の基幹産業の基幹技術のひとつとなっ

ている。

(成果物)

- ・特願2014-163826 酵母のスクリーニング方法およびそのためのプログラムならびに装置
- ・佐藤友哉、澤田和敬、浜島弘史、北垣浩志/アルコール発酵時の清酒酵母におけるミトコンドリアを介した代謝/CMC出版 発酵・醸造食品の最前線, in press (2015)
- ・北垣浩志 清酒酵母のミトコンドリア活性・分解に制御される新たな代謝経路の解明とそれに基づいた醸造技術の開発/日本醸造協会誌, 109, 3, 1-11 (2014)
- ・Enhancement of ethanol fermentation of *Saccharomyces cerevisiae* sake yeast strain by disrupting mitophagy function. *Applied and Environmental Microbiology*, 80 (3), 1002-1012 (2014)
- ・Gennaro Agrimi, Maria C. Mena, Kazuki Izumi, Isabella Pisano, Lucrezia Germinario, Hisashi Fukuzaki, Luigi Palmieri, Lars M. Blank and Hiroshi Kitagaki/Improved sake metabolic profile during fermentation due to increased mitochondrial pyruvate dissimilation. *FEMS Yeast Research*, 14(2):249-260 (2014)
- ・Hiroshi Kitagaki* and Hiroshi Takagi/ Mitochondrial metabolism and stress response of yeast: Applications in fermentation technologies. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 117(4):383-393 (2014).

13. 松本 雄一

／農学部附属アグリ創生教育研究センター (G)

「地域医療・福祉の向上を目指した高齢者・障がい者向けユニバーサル園芸セラピー法の確立」

(目的及び計画)

アグリ医療（園芸セラピー）を身体が不自由な高齢者及び障がい者等に対して実施するにあたり、負担が少なくかつ効果的な作業を検証するため、病院や施設における高齢者及び障がい者等を対象に栽培や収穫等、複数の園芸活動を実施し調査する。その結果から効果的なユニバーサル園芸セラピー法を明らかにし、次年度以降、明らかにしたユニバーサル園芸セラピー法について多くの高齢者・

障がい者を実施して普遍的な療法プログラムを構築する。また、学生に対する教育プログラムとしても活用可能にする。

(教育・研究・社会貢献における成果)

園芸セラピーの効果について検討を行った結果、ユニバーサル園芸セラピー法としては特に収穫作業が効果的であると考えられた。この結果を基に、今後、高齢者や障がい者向け園芸セラピーの開発・検討を行う。教育においては、延べ9科目280名以上の学生に、地域志向に係る研究成果および研究の取り組み状況を活用した講義・実習及び演習を行い、アグリ医療に対する興味・関心の向上が見受けられた。また、佐賀県内の社会福祉法人などに対し、園芸を用いた福祉事業に関する相談および技術支援を行った。その他、佐賀市内幼稚園・保育園児約600名に対して園芸作業の体験会を実施した。

(成果物)

【発表】

- ・佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターにおけるアグリ医療関連の取り組み、コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト佐賀大学FD・SD研修会、森田由佳 (2015)

14. 江原 史雄

／農学部附属アグリ創生教育研究センター (G)

「家畜を用いたアグリセラピーの開発と普及および動物介在型食農教育プログラムの開発」

(目的及び計画)

アグリセラピーにおける適切な家畜のモデル像構築のため、家畜のヒトに対する行動様式およびヒトと家畜の友好関係構築に関与する要因、家畜に及ぼすストレス要因の解析を行う。また、プロジェクトで整備されたWi-Fiと、モバイル端末を用いたセラピープログラムを検討して、これらを総合的に解析し、農場資源を療育に活用する方法を研究する。平成26年度は研究を推進するための準備と試験を実施し、以降は、プログラム開発により、アグリセラピーの実施と教育場面での実践を

図る。

(教育・研究・社会貢献における成果)

研究により、アグリセラピーで活用するヤギのモデル像構築のための飼養管理法確立への貢献や、ウシのストレス軽減と安全性の向上が期待できた。教育においては、文化教育学部および農学部学生が参加した発達障害支援プログラム開発のための実証的な検証と、農学部学生が参加した動物介在によるアグリセラピーの効果検証を行った。また、広く一般向けにアグリセンターで誕生した子ヤギの名付け親募集を行い、COC事業およびアグリセラピー開発プロジェクトの周知ができた。

(成果物)

【発表】

- ・森田由佳：「佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターにおけるアグリ医療関連の取り組み」、コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト佐賀大学FD・SD研修会

【論文】

- ・江藤咲月：「ヒトとの接触時期がトカラヤギの親和性構築に及ぼす影響」、平成26年度佐賀大学農学部 卒業論文
- ・岡部 誠：「成ヤギの記憶力の検証」、平成26年度佐賀大学農学部 卒業論文
- ・陣内さくら：「牛群内における社会的順位に影響する要因の解析」、平成26年度佐賀大学農学部 卒業論文
- ・山西可菜：「異なる温度環境における日陰の有無がウシのストレス状態に及ぼす影響」、平成26年度佐賀大学農学部 卒業論文

15. 有吉 浩美／医学部看護学科

「保健師教育の質担保に向けた教員用の実習関連様式の試行および開発」

(目的及び計画)

日本看護系大学協議会の「看護教員に求められる能力」に関する調査によると、博士後期課程は、前期課程に比べて、実習施設との関係調整能力、臨床実習における学習支援能力を意図した授業が少ないことが明らかとなった。そこで、「統合実習」[公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱ]内で、実習における指

導等のばらつきの防止及び内容統一のため、教員が用いる実習関連様式に焦点をあてて開発を試みる。次年度以降は、実習を通して実践し、実習終了後に実習関連様式を精練、教育（教員）の質の担保にむけた開発を進める。

（教育・研究・社会貢献における成果）

保健師の育成については、保健師と新卒3名、既卒8名を輩出。また、教育の質の担保については、助教の育成として、実習指導報告書式を開発して、実習中の助教の教育レベルの統一を図った。特に公衆衛生看護実習は、学外の実習施設のため、報告・連絡・相談の徹底を図ることができた。佐賀県において、本学が保健師を育成し輩出することは、質の高い保健事業を展開できるとともに、保健医療福祉にかかる費用の削減へ繋がる。

（成果物）

- ・地域の保健活動の活性化に必要な要因-A地区における保護者会活動の実態を通して- 日本健康医学会誌
- ・育児中の保健師を対象とした面接調査票のあり方について～パイロット調査を実施して～ 日本健康医学会誌
- ・子育て支援センターの活用実態に関して 日本健康医学会誌 掲載

■学生の地域での活動拠点 さがよかとこの家

<概要>

佐賀市呉服元町の元文房具店の空き店舗を理工学部三島伸雄研究室監修でリノベーションした「美穂野」。道路に面する1階は、佐賀市内に数多く点在する恵比須像で地域活性化を行っている団体の活動拠点「開運さが恵比須ステーション」として、その奥の1、2階はまちなかシェアハウス「さがよかとこの家」として生まれ変わりました。シェアハウスには、2014年3月から理工学部都市工学科の学生たちが居住しています。現在、学生がまちなかに住み込みながら、市民との協働によるまちなか活性化を進めています。

この建物は、第18回（平成26年度）佐賀市都市景観賞を受賞しました。

<活動報告>

- ・2014年12月3日(水)、「開運さが恵比須ステーション」で「さがよかとこの家」に住む学生6人が「佐賀市魅力発掘事業シンポジウム」を開催。
- ・2015年1月24日(土)、佐賀大学産学・地域連携機構主催の「第10回佐賀ビジネスプランコンテスト(コンペティション)」に参加。「学生が行きたい佐賀のまちなか空間創出へ」をテーマに「さがよかとこの家」に住む学生6名が発表し優秀賞を受賞。



まちなかシェアハウス「さがよかとこの家」



理工学部都市工学科の学生がリノベーションに参加



シェアハウスのウッドデッキ作成風景

<感想>

2014年3月から約1年間、理工学部の6人で中心市街地のシェアハウスで生活しています。シェアハウスの利点としては、家賃の安さや一人暮らしでは感じられない安心感、共同生活による協調性の向上などが挙げられます。また、“家”そのものの利点に加えて、中心市街地に居住するという“地”の利点として、まちなかにある多くのお店と出会いや近隣の商店街の方との交流が生まれるなど、まちの魅力や人の温かさに触れることができました。逆に、学生が気軽に立ち寄れる店や興味をひかれる店の少なさ、店のバリエーションの少なさなど、まちなかで暮らしているからこそわかる課題も発見しました。

その課題解決のため、昨年12月には「佐賀市魅力発掘事業シンポジウム」を開催し、学生が訪れたくなる場所づくりや、今後のまちづくりについて参加者と意見交換をしました。さらに、佐賀大学産学・地域連携機構主催の「第10回佐賀ビジネスプランコンテスト（コンペティション）」に参加し、「学生が行きたい佐賀のまちなか空間創出へ」をテーマに、魅力あるまちづくりについての提案を行いました。これらの取り組みの中で、約半年の時間をかけて「まちなか探検MAP」を作成。まちなかのお店50店舗以上を巡り、学生ならではの視点で作成した地図には、飲食店や資料館など44のおすすめスポットを掲載しています。

この1年間のまちなかでの生活や活動を通じて、さまざまな方との出会いや座学では学ぶことができない経験をしました。これらの出会いや経験を、今後の取り組みや進路に活かしていきたいと思えます。



「佐賀市魅力発掘事業シンポジウム」を開催



約半年をかけて作成した「まちなか探検MAP」



文部科学省 地(知)の拠点整備事業 佐賀大学・西九州大学 コミュニティ・キャンパス佐賀拡大推進会議

日 程：平成26年5月26日(月) 15:30~17:00
場 所：佐賀大学 理工学部6号館(DC棟)2階 多目的セミナー室

概 要：

佐賀大学と西九州大学、連携自治体が構成メンバーとなり、地域ニーズの収集とコミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトの円滑な推進を図るために設置する推進会議を拡大して開催。連携する佐賀県、佐賀市、神崎市、小城市、唐津市、嬉野市、鹿島市、吉野ヶ里町の1県6市1町の事業担当者約50名と、本事業の12のプロジェクト代表、両大学関係者約30名の計80名が参加した。会議では、各プロジェクトのこれまでの取り組みと今年度の計画等を発表し、本事業についての理解促進と情報交換を行った。

プログラム：

15:00~ 受付
15:30~ 開会挨拶 佐賀大学教授・五十嵐勉
15:40~ プロジェクト別発表
各プロジェクト代表及び副代表による発表と質疑応答
17:00 報告事項
17:10 閉会の挨拶 西九州大学・井本浩之

プロジェクト別発表

<プロジェクトA>

五十嵐教授から、プロジェクトAについて、今年度から佐賀大学のインターフェース科目として実施していることを説明。前期は講義を中心に地域について学び、後期から実際に連携する自治体へ赴き地域課題の解決を行うとの説明があった。

<プロジェクトB>

郡山准教授から、プロジェクトBについて、A同様に今年度から佐賀大学のインターフェース科目として実施していることを説明。昨年度は農学部等の科目等で試行的に行い、有明海の環境保全や、学生や市民が協働して行う環境教育等を実施し、今年度はフィールドワークを中心に前年度試行したことを活かしプロジェクトを進めるとの説明があった。

<プロジェクトC>

井上教授から、プロジェクトCについて、昨年度は佐賀大学とNPO法人スポーツフォアオール、連携自治体が協働して健康教室を開催したとの説明があった。教室では、地域住民との世代間交流やデータ収集とその活用、学生と地域住民との交流を行っており、今年度は佐賀県、佐賀市、鹿島市、嬉野市と協働して事業を推進する。

<プロジェクトG>

堀川教授から、プロジェクトGについて、医学部と農学部が連携してアグリセラピー開発を実施しているとの報告があった。昨年度はアグリセラピー実施のための環境整備を行い、今年度からアグリ創生センターに敷設したGPS設備等を活用して、心拍等のデータ収集を行うとの説明があった。

<プロジェクトD>

戸田准教授から、プロジェクトDについて、昨年度は、地域に関わる調査研究を実施し公開講座において発表を行ったとの報告があった。今年度は小城市で「合併自治体における公共施設(健康保健福祉施設)の利活用と地域活性化」をテーマにゼミ単位で調査研究を行うと説明。小城市以外の連携自治体における調査研究を実施する可能性も示唆し、協力を依頼した。

<プロジェクトE>

杉岡教授から、プロジェクトEについて、昨年度の夏期研修の説明があった。今年度は唐津の離島3班、三瀬

を中心とした山間地域1班の計4班に分け、山間・離島の医療実習を実施する他、地域医療卒の学生は1週間の実習を実施予定であることを報告した。

<プロジェクトF>

三島教授から、プロジェクトFについて、昨年度は、佐賀市で実験住宅まちの間3号や、ライトファンタジーへの参画、鹿島市では市民会館計画や肥前鹿島駅前広場の計画等を学生が調査研究を行ったとの報告があった。今年度も引き続き「建築」や「都市デザイン」という観点で、デザインクリエイター養成を目的に、各連携自治体において事業を実施予定であるとの説明があった。

<プロジェクトH>

上城准教授から、プロジェクトHについて、介護予防は理学療法士、認知症は作業療法士を目指すリハビリテーション学部学生が関わるとの説明があった。昨年度は、地域の介護予防事業に参加している高齢者の検査等を実施。今年度は、介護予防プログラムの作成と実施とMCI（軽度認知障がい）の方のデータ収集、眼球運動の調査を実施予定であるとの報告があった。

<プロジェクトI>

梅木講師から、プロジェクトIについて、昨年度は、連携する神崎市と小城市との打ち合わせを実施したとの報告があった。今年度は、平成18年から西九大、佐賀県、神崎市が協定を結ぶ食育支援や、特定検診の受診率のアップのための広報、神崎市内の保育園及び小学校における学生による食育講座の実施、小城市においては食育体験プランの協働実施を行うという説明があった。

<プロジェクトJ>

岡部講師から、プロジェクトJについて、昨年度は学内の事業体制整備と関係機関との連携の強化を実施したとの報告があった。今年度は、「発展ゼミナール」において「学士力養成」「地域での実践力養成」「地域課題の解明と新しい地域資源の提案」を目的に、6月以降に地域での活動を開始し、後期はまとめと振り返り、1～2月に活動報告を予定しているとの報告があった。

<プロジェクトK>

安田教授から、プロジェクトKについて、昨年度実施した「ひしほうろ」や「ののじパン」「ノリージョ」などの開発について報告があった。今年度も引き続き関係機関と連携して、学生をチーフプロデューサーとした食品の開発（対象食品：アスパラガス、ハーブ、キクイモ、ヒシ、白インゲン豆、ジャンボニンニク）と機能性の研究を目的に実施中であるとの説明があった。

<プロジェクトL>

中山講師から、プロジェクトLについて、昨年度は連携自治体の担当部局との調整やサロン活動視察、イベント等へ参加したとの報告があった。今年度は、J同様「発展ゼミナール」において、サロンを中心とした福祉系活動と、まつり等イベント系活動への参加による地域交流の阻害要因の解明と解消を目的に活動し、11～12月には活動を通してUDに向けた地域課題の整理を行うとの説明があった。

質疑応答

Q1.（小城市商工観光課・秋野様）プロジェクトIの小城市食育推進事業「伝えよう伝統料理」について、「普茶料理」の調理実習をしているということだが、どういった対象にどのように伝えていくのか具体的に教えてほしい。

A1.（プロジェクトI担当・梅木講師）春香会の「普茶料理」の振る舞いには、例年健康栄養学科の学生が手伝いに行く。学生は「普茶料理」について春香会の方に教えてもらいながら、学んだことを基に歴史や作り方のリーフレットを作成し、小城市の子どもからお年寄りまでを対象に伝えていく予定である。



拓大推進会議開催風景

文部科学省 地（知）の拠点整備事業 佐賀大学・西九州大学
**コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト
シンポジウム2014**
～学生－市民－産学官の協働による地域創生～

日 程：

平成26年12月20日（土） 13:30～17:00

場 所：

アバンセ（佐賀市天神3丁目2-11）

概 要：

佐賀大学と西九州大学による地（知）の拠点形成に向けた取り組みを推進するため、「学生－市民－産学官の協働による地域創生」をテーマに、地域を志向した教育・研究の活性化及び社会貢献のあり方について、滋賀県立大学名誉教授・柴田いづみ氏による基調講演と自治体代表及び学生代表等のパネルディスカッションを実施。会場外には全12事業のパネルを展示。約350名が来場した。



各自治体における活動紹介や学生発表を行った

基調講演

■ 「学生がまちにできること、まちが学生にできること
—学生・市民“共動”の地域づくり—」

滋賀県立大学名誉教授・結のまちづくり研究所代表
柴田いづみ氏

講演内容

講師である柴田いづみ氏は、琵琶湖の内湖再生のための活動や基礎調査、学生サークルとの空きビル・空き町家を使った中心市街地拠点活動、地域密着型まちづくりに取り組み「結のまちづくり研究所」の発足・代表等を行ってきた。講演では、滋賀県立大学の授業において「学生とまち」が共動して行った中心市街地活性化の取り組みや、「まちを創る」をテーマに設計した福島県矢吹駅及び駅周辺計画、学生・市民・教員・公務員・建築士が共動して取り組んだ彦根城南東部の花しょうぶ通り商店街「寺子屋力石」の改装など、学生によるまちづくりの取り組み事例と地域が抱える課題及びその解決方法について紹介した。

.....

パネルディスカッション

■ 「学生—市民—産学官の協働による地域創生」

パネリストとして佐賀市、小城市、吉野ヶ里町の連携自治体の代表とNPO法人まちづくり機構ユマニテさが常務理事、両大学学生代表が登壇し、これまでに実施した地域での活動紹介と評価、今後の活動への期待について意見を交換した。連携自治体からは、今後の取り組みに向けた「さらなる連携強化」や「大学と自治体の共通目標の共有」等の意見があった。学生代表からは実際の活動内容や地域活動の感想、今後の取り組みなどについて報告があった。



地域における取り組み事例を数多く紹介



佐賀大学学生代表の農学部2年中島美咲さんによる報告

平成26年度 地(知)の拠点整備事業

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 佐賀大学FD・SD研修会

日 程:

平成27年1月23日(金) 14:40~16:35

場 所:

佐賀大学 大学会館2階多目的ホール

概 要:

地(知)の拠点整備事業-コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト-に関連する、地域を志向した教育研究の取り組み内容とその課題の共有、及びCOC機能の強化に向けた全学的な取り組みの推進を図るため開催。基調講演には宮崎大学農学部教授・みやだいCOC推進室室長の國武久登氏を迎え、宮崎大学におけるCOCの取り組みについて紹介いただいた。報告会では、農学部附属アグリ創生教育研究センターの技術補佐員森田由佳氏によるアグリ医療の取り組みについて報告があった。この研修会は佐賀大学のFD (Faculty Development) ・SD (Staff Development) 研修会を兼ねて実施し、約60名が参加した。



研修会には約60名が参加した

基調講演

■ 「宮崎大学におけるCOC機能の強化と地
(知)の拠点整備事業
ーその全学的取り組みー」

宮崎大学農学部教授・みやだいCOC推進室室長
國武久登氏

講演内容

COC 事業設置の背景について説明後、宮崎大学におけるCOC事業の取り組みについて、その特徴や事業実施体制、教育・研究・社会貢献におけるミッションと成果、今後の課題について報告があった。宮崎大学は「食と健康」を中心に事業を推進。人材育成のための「地域活性化・学生マイスター」認証制度や「農畜水産加工実習室・食品成分分析実習室」の設置による県産農作物の機能性評価、地域ブランドの創出、学生ボランティア及びチャレンジプログラム等による社会貢献事業等、数多くの取り組みを全学的に行っている。

報告会

■ 「佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究
センターにおけるアグリ医療関連の取り組み」

農学部附属アグリ創生教育研究センター技術補佐員
森田 由佳氏

講演内容

佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センター（以下、アグリセンター）で実施する、農業フィールド資源活用による動物介在療法及び園芸療法の構築プロジェクトでは、これまで食料生産手段として利用してきた家畜や作物栽培を、障害等を持つ患者様のケア手段に応用することを目的に、農学部、医学部、文化教育学部と共同で研究教育の企画・推進を行ってきた。その結果、動物介在療法の効果を客観的に示すことができ、動物介在療法を障害等を持つ患者のリハビリテーションに応用し、その際の治療効果判定の一助となると考えられることが判明した。また、アグリセンターのユニバーサルデザイン化の必要性について報告があった。



宮崎大学におけるCOC事業の取り組みについて紹介



動物介在療法及び園芸療法の構築プロジェクトについての報告

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 外部評価の実施

日 程:

平成27年3月18日(水) 13:00~17:00

場 所:

佐賀大学付属図書館会議室

概 要:

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会が行った「自己点検評価」の結果について、運営委員会以外の者による外部評価を実施した。

外部の有識者を外部評価委員会委員として招聘し、自己点検評価報告書の書面審査、討論による評価を依頼した。外部評価委員会は、評価報告書を運営委員会委員長に提出し、運営委員会が行う事業等の質的向上を図り、その運営全般の改善・改革に資するとともに、ステークホルダーや社会からの負託に応えることを目的とする。

1) 外部評価委員会

協議事項等:

13:00~13:10 開会の挨拶

13:10~13:15 外部評価委員会委員の紹介

13:15~13:20 コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会関係者の紹介

13:20~17:00 外部評価委員会

①外部評価委員会実施要領(案)について

②外部評価委員会委員長の選出

③事業、及び自己点検評価書の概要について

④質疑・応答

⑤外部評価書の作成、及び取りまとめ

(運営委員会関係者退出)

⑥今後のスケジュールについて

評価報告書の最終報告書の提出

17:00

閉会

2) 学部評価報告書の提出 平成27年3月30日(月)(予定)

外部評価委員会は、「外部評価報告書」を取りまとめ、コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会に提出する。

外部評価委員会の委員名簿

吉村 充功	日本文理大学・教授 日本文理大学人間力育成センター・センター長
渡辺 亮太	福岡工業大学FD推進室・室長
小林 秀則	佐賀県 統括本部 政策監グループ 副課長
伊豆 哲也	特定非営利活動法人まちづくり機構ユマニテさが 常務理事

コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会の出席者名簿

中島 晃	コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会委員長 佐賀大学副学長 (研究・社会貢献・国際貢献担当)
井本 浩之	西九州大学事業実施責任者・教授 西九州大学副学長 (社会貢献担当)
五十嵐 勉	佐賀大学事業実施責任者・教授 全学教育機構 産学・地域連携機構地域連携部門長 (併任)
弓削 純一	佐賀大学研究協力課・課長
三島 舞	佐賀大学COC事業コーディネーター
山中 健正	西九州大学総務課・課長
土橋真奈美	西九州大学地域連携センター コーディネーター
徳安 優一	西九州大学地域連携センター コーディネーター



外部評価委員会の様子

■空き店舗活用事業「さがよかこの家」

2014/3/20 西日本新聞



「よかこの家」の台所にタイルを張る
佐賀大の学生

空き家を我が家に

佐賀大、建築士会など
共同プロジェクト

佐賀市中心部の活気づくりにつなげようと、商店街の空き家を改修した学生用共同住宅「よかこの家」が呉服元町に完成した。佐賀大の学生たちが2010年、11年に続いて造った実験住宅の第3弾。今回はまちづくり団体や市が支援する体制になり、地域との連携強化を目指す。

学生が改修 商店街元気に

住宅づくりに取り組むのは、理工学部都市工学科の学生たち。三島伸雄教授や県建築士会が進めるまちなか再生プロジェクトの一環で、完成後に住み込むことを前提に計画から改修作業まで携わる。「学生が暮らすことで地域コミュニティを刺激し、学生も社会性が養われる」と三島教授は意義を説明する。

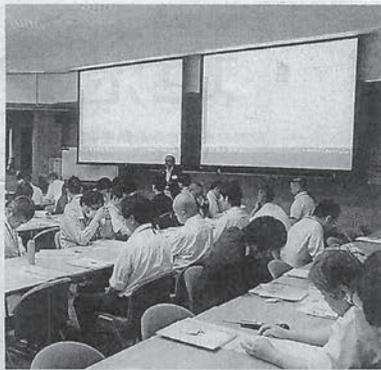
よかこの家は、明初期に建てられた元文房具店を活用。1階に共同の台所やコミュニティスペース、2階に6部屋を設けた。現在、都市工学科2年の女子学生5人が入居予定で、22日から引

越し作業を始める。その1人、長野真帆さん(21)は「マンションやアパートより暮らしている人の顔が見える生活が面白いと思った」と語る。入居に当たっては、市街地活性化に取り組み佐賀市のNPO法人「まちづくり機構ユマニテさが」が建物所有者から一括で借り上げ、学生に貸す形をとった。これまで造った2棟の実験住宅は三島教授や不動産会社が借りていたが、ユマニテが入居を保証することで所有者が改修に踏み切りやすくなる狙いだ。今回の例をモデルに、今後も空き物件の所有者に活用を働きかけていく。

ユマニテはさまざまな地域行事に関わっており、入居学生に参加を呼び掛け連携を深める。佐賀市内の実家から移り住む石井陽菜さん(20)は「地元の人たちも知らないまちの魅力を発信したい」と話した。(石田剛)

■地(知)の拠点整備事業拡大推進会議

2014/5/31 佐賀新聞



自治体関係者を前に、地域連携事業の成果と本年度の計画を報告する大学担当者—佐賀市の佐賀大学本庄キャンパス

佐大・西九州大と県、7市町

地域課題取り組み報告

中心市街地活性化など12件

佐賀市 佐賀大学(佐賀市)と西九州大学(神埼市)が県内の自治体と連携して地域課題に取り組み「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」の本年度初会合が26日、佐賀市の佐賀大学本庄キャンパスであった。中心市街地活性化や特産品を使った機能性食品の開発、高齢者の交流サロン開設など12件の共同事業の経過と本年度の活動方針を報告した。

両大学は昨年度、文科省事業「地(知)の拠点」に共同申請、採択された。県と佐賀市など6市1町が参加しており、学生や教員が各自治体を研究・教育のフィールドとして活用することで地域貢献を目指す。2017年度までの5カ年計画で進められる。

会合には、両大学の研究者や自治体関係者約60人が出席。西九州大学と神埼市などが特産のヒシの皮を使った「ひしぼうろ」の開発に取り組んだことや、佐賀大学の有明海学の授業に干潟底泥の実験や海洋調査を取り入れることなどが説明された。

同事業実施責任者の五十嵐勉佐賀大教授は「大学の研究シーズ(技術・アイデア)と自治体側のニーズをマッチングする場が必要。

連携を深めていく中で、プロジェクトを継続していけるよう
を天いに活用してもらい、
にしたい」と話した。
(村上大祐)

■よかつ子 環境・農業体験学習

2014/6/27 佐賀新聞

児童歓声 どんご田植え



東与賀小 農業や環境体験学習

佐賀市 佐賀市東与賀町の東与賀小で、田植えと大田功の水生生物観察で、農や環境について学ぶ体験学習があった。5年生90人が参加し、1つも水を植えて、どんご田植えの体験をした。

周辺の水生生物観察も

環境学習の場として、大田功の水生生物観察の体験学習も行った。水生生物観察の体験学習は、大田功の水生生物観察の体験学習で、水生生物観察の体験学習を行った。水生生物観察の体験学習は、大田功の水生生物観察の体験学習で、水生生物観察の体験学習を行った。

田植えは、農の体験として、児童は、田植えの体験をした。田植えの体験は、農の体験として、児童は、田植えの体験をした。田植えの体験は、農の体験として、児童は、田植えの体験をした。

■第1回AQUA SOCIAL FES. 田植えと外来種駆除

2014/6/29 佐賀新聞

東与賀でアクアフェス

水環境保全身近に 田植え、タニシ駆除体験



佐賀市 佐賀市東与賀町の東与賀小で、水環境保全の体験学習として、田植えとタニシ駆除の体験学習があった。児童は、水環境保全の体験学習を行った。

水環境保全の体験学習は、水環境保全の体験学習として、児童は、水環境保全の体験学習を行った。水環境保全の体験学習は、水環境保全の体験学習として、児童は、水環境保全の体験学習を行った。

田植えの体験は、農の体験として、児童は、田植えの体験をした。田植えの体験は、農の体験として、児童は、田植えの体験をした。田植えの体験は、農の体験として、児童は、田植えの体験をした。

タニシ駆除の体験は、水環境保全の体験学習として、児童は、タニシ駆除の体験をした。タニシ駆除の体験は、水環境保全の体験学習として、児童は、タニシ駆除の体験をした。タニシ駆除の体験は、水環境保全の体験学習として、児童は、タニシ駆除の体験をした。

■フィールドワーク基礎演習合宿

2014/7/21 佐賀新聞



専門家から指導を受けながらのこぎりで毛ソウ竹を切る。佐賀大農学部2年生行「吉野ヶ里町松隈」

荒れた竹林、集落振興…

地域の課題に学生挑む

吉野ヶ里町 佐賀大農学部2年の学生16人が、地域の課題を見つめ解決策を探ろうと、吉野ヶ里町松隈地区で19日から2泊3日の合宿をしている。地元区長らに聞き取りをしたほか、多良正裕町長を囲んで座談会を実施。倒れる危険がある竹の伐採をしたり、バーベキューを通じ住民と交流を深めた。

佐大農学部 吉野ヶ里で調査合宿

五十嵐勉教授が担当する授業「フィールドワーク基礎演習」の受講生が参加している。初日は2017年度完成予定の「五ヶ山ダム」建設予定地などを視察し、町担当職員から施設の概要や建設目的、周辺地域の観光施策について説明を受けた。

20日は二つの集落の区長や自治会役員に、旧東脊振村の歴史や農林業の現状を聞き取り調査。夜は多良町長に、ダムが建設される水源地域の振興策などを尋ねた。

坂本集落の熊野神社近くでは、伸びた毛ソウ竹を伐採した。冬場、雪の重みで竹が社殿側に倒れるのを防ぐために切っているが、集落の高齢化が進み作業がしにくくなっているという。中野登花さん(19)は体力を使う作業で、二つした課題があることを広く知ってもらうきっかけ作りも必要と話した。

21日は2日間の調査結果をスライドにまとめて発表する。合宿は、県全域をキャンパスと位置づけ、学生が地域で学習するよう推進する「地(知)の拠点整備事業」(ミニユニティ・キャンパス佐賀)の一環。(大塚堅志)

■第1回環アジア国際セミナー in 肥前浜宿

2014/8/1 西日本新聞

歴史的環境の継承と地域再生を議論する第1回環アジア国際セミナー(佐賀大)が31日、鹿島市浜町の真竹酒造東蔵で始まった。佐賀大と海外3カ国の大学から建築や都市計画を学ぶ学生や研究者70人が参加。8月4日まで各国の建築物や都市デザインについて議論する。

歴史的環境の継承と海外の学生ら議論 鹿島市でセミナー

歴史的環境の継承と地域再生を議論する第1回環アジア国際セミナー(佐賀大)が31日、鹿島市浜町の真竹酒造東蔵で始まった。佐賀大と海外3カ国の大学から建築や都市計画を学ぶ学生や研究者70人が参加。8月4日まで各国の建築物や都市デザインについて議論する。

韓国交通大学校による提案で、佐賀大、タマサート大(タイ)、カダフ高等建築アカデミー(カダフス)などが参加した。佐賀大大学院工学系研究科の三島伸雄教授(都市工学)が16年前から、国重要伝統的建造物群保存地区に指定されている肥前浜宿(浜町)の町並み保存に関わっていることから、浜町で開催することにした。初日は、三島教授が肥前浜宿についてスライド上で紹介した後、懇親会を開いた。会場設置や宿泊受け入れに協力したNPO法人「肥前浜宿水とまちなみの会」の中島文夫理事長(68)は「肥前浜宿を海外の人にも知ってもらうきっかけになれば」と話した。(大淵龍生)

■√佐大（ルートサダイ）中心市街地活性化イベント

2014/9/15 佐賀新聞

佐賀市 佐賀大の学生グループによるイベントが13日、同市呉服元町の656広場で開かれた。ライブや市民参加型のゲームなど多彩な内容で、連休初日の街中に若者の元気な声が響いた。佐賀市に商店街のにぎわいを取り戻そうと、同大のまちづくりグループ「√（ルート）佐大」が開いた。同大のアカペラやジャズサークル、高校生のダンスグループなどが出演。商店街や大学に関する〇×クイズ、来場者と手をつないで知恵の輪を作る企画などもあり、一帯を盛り上げた。

656広場 佐大生が手作り催し

商店街の手作り地図を来場者に配り、食事や買い物に出掛けてもらう工夫も。趣旨に賛同し、イベントに出店した雑貨店「佐賀一品堂」（同市唐人町）の城島正樹さんは「行政に頼るのではなく、自分たちが能動的に仕掛けていかないと」とイベントの意義を強調。企画した同大2年の横山沙季さんは「人通りを増やすのは簡単ではないけど、若者と町をつなぐきっかけになれば」と話していた。（谷口大輔）

イベント会場一帯には、ライブや雑貨店の出店などで若者の元気な声が響いた—佐賀市呉服元町の656広場



■蕨野の棚田 ふるさとの灯りコンサート2014

2014/10/2 西日本新聞

蕨野の棚田を守るためのメンバーと協力して竹を切る佐賀大生



佐大生自作の竹灯籠を演奏する 蕨野の棚田で5日に演奏会

唐津市

国の重要文化的景観に指定された蕨野の棚田（唐津市相知町）で5日午後6時から「ふるさとの灯りコンサート」が開かれる。農家や有識者でつくるNPO法人、蕨野の棚田を守る会が毎年開催。今回は佐賀大学の2年生が運営に参加し、自作の竹灯籠を並べる。幻想的な空間で歌や楽器の演奏を奏しめる。

学生は大学で地域創成学を専攻する15人。企画段階から参加し、9月27日の灯籠作りでは現地で伐採した竹節り分けて加工した。灯籠はステーションの周りや棚田のあぜ道に飾る。「若い人にも棚田の魅力を伝えたい」と理事長の川原増雄さん（67）は「若者が運営に入ると活気づく」と話す。

コンサートは参加費500円で申し込みが必要。終了後、新米と郷土料理を味わう交流会（千円）もある。唐津市相知支所産業課 09955（03）711155。（石田剛）

■第2回AQUA SOCIAL FES. 干潟の生き物観察と清掃活動

2014/10/12 佐賀新聞

「宝の海」豊かさ実感

佐賀平野と有明海の生物を守る「アクアフェス」

東与賀海岸

佐賀市 佐賀平野と有明海の生物を守るプロジェクト（佐賀新聞社・東与賀まちづくり協議会主催）が11日、佐賀市の東与賀海岸で開かれた。親子連れや佐賀大生ら約100人が干潟の底生生物を観察したほか、海岸に漂着したごみを拾って、シチメンソウ群生地

の景観保護に貢献した。
参加者はムツゴロウや、つた絶滅危惧種を間近でシオマネキなど干潟でお観察。「まえうみ市民のなじみの生物やアリアケ 会」の中村安弘さんや太ガニ、シマヒナタリとい、良高生物科学部の解説を



海岸の漂着ごみを集める参加者たち＝佐賀市の東与賀海岸

親子連れら 生き物観察、清掃に汗

聞きながら、干潟に多種多様な生物が生息していることを実感した。

続いて行われた清掃活動ではアシヤヨシ、ブラステイック類などの漂着ごみを軽トラック4台分集めた。佐賀大学農学部2年生の黒岩幸紀さん（20）は「泥との格闘でこみ集めは大変だった。ごみを捨てないという小さなことからみなが始めたければ」と感想。大良高3年生の原優樹さん（17）は「大良の海岸と違って、アシヤヨシが繁茂していた」と話していた。

トヨタ自動車が全国の地方新聞社と連携して行う環境保全活動「AQUA SOCIAL FES（アクアソーシャルフェス）」の一環で実施した。（藤生雄一郎）



軽トラック4台分の漂着ごみが集められた

■サガ・ライトファンタジー2014学生参画

2014/10/19 佐賀新聞



29日から点灯する「サガ・ライトファンタジー」を前に、街路樹に電飾を取り付ける佐賀大の学生たち＝佐賀市白山の中央大通り沿い

「ライトファンタジー」の季節

学生、街路樹に電飾

佐賀市 佐賀市中央大通りの夜を彩る「サガ・ライトファンタジー」(29日から点灯)を前に、佐賀大と西九州大の学生約50人が18日、電飾の取り付け作業をした。イベント運営にかかり街づくりに取り組むを学ぶのが狙い。学生たちは脚立に上がり、街路樹へ丁寧にLED電球のついたコードを巻き付けていった。作業は19日も行う。

9月に現地調査をし、学生たちがデザイン案を練った。佐賀市白山と呉服元町の街路樹などにLED電球計10万球を取り付け、街路樹の枝先にはカラーボールを付けて彩りを添える。呉服元町のフキンクスベール周辺では、「メルヘン」をテーマにカボチの馬車や魔法のオブジェも目玉。白山では、夜間だけでなく、昼間もムードを盛り上げようと中央通りを「SAGA」の文字をデザインしたプラスチック板を設置する。

佐賀市中央大通り

佐賀大と西九州大生



★学生新聞★
が楽しめる。
(大塚堅志)

佐賀大の学生は、地域を学ぶ授業の一環として取り組んだ。作業に加わった佐賀大2年生チームのリーダー八藤丸貴大さん(19)は「本番が楽しみ。街ゆく人が電飾で明るい気持ちになっただけなら」と汗をぬぐった。ライトファンタジーはバルーンフェスタの前夜祭として、29日に点灯式を行う。午後6時～同10時まで、中央大通り約1.2kmのほか、エスプラッツや沿線の店舗などで来年1月12日までライトアップ



■「東よかに行こう!ワールドカフェ」参加

2014/11/13 佐賀新聞

佐賀市 若者に有明海の干潟の将来を考えたならラッシュを練り上げる「ワールド・カフェ」と呼ばれる方式で、応用紙に書き込んだ質問項目や各自の思いをともに話し合った。「干潟を50年後の人が気持ちよく使える場所にするにはどうしたらよいか」という質問には「人を集めると保全につながるから、シチメンソウクッキーやまんじゅうなど名産品をつくる工夫の振興策」が上がっていた。



来春考えてもらおうと佐賀青年会議所が9日、佐賀市東与賀町の干潟よか公園で座談会を開いた。佐賀大や西九州大の学生ら約40人が芝生の上でリラックスしながら、干潟の保全方法や活用策について意見を交わした。参加者は3、4人ずつの会話を楽しみながらアイデアを練り上げる「ワールド・カフェ」と呼ばれる方式で、応用紙に書き込んだ質問項目や各自の思いをともに話し合った。「干潟を50年後の人が気持ちよく使える場所にするにはどうしたらよいか」という質問には「人を集めると保全につながるから、シチメンソウクッキーやまんじゅうなど名産品をつくる工夫の振興策」が上がっていた。意見交換を前に、見ごろを迎えているシチメンソウの見学や遊歩道の清掃も実施した。座談会は初めての企画で、佐賀青年会議所は参加者アンケートをまとめ、東与賀まっつくり協議会に提出する。(大塚堅志)

■吉野ヶ里町東脊振地区での日本事情研修

2014/12/9 佐賀新聞

佐大留学生 日本文化を体験

吉野ヶ里町 中国や韓国、フランスなどから訪れている佐賀大の短期（1年）留学生50人が6日、吉野ヶ里町の「背振山修学院」（坐口諦順住職）などで座禅やミニ門松作りに取り組んだ。慣れない足の組み方やノコギリの扱いに悪戦苦闘しながら、日本の伝統文化に触れた。

留学生たちは坐口住職が見守る中、背筋を伸ばし、静かに呼吸を整えて15分ほど座禅を組んだ。農学部で学ぶ、パングラディッシュのレヌマ・ホック・サラさん（27）は「足は痛くなかった。心が落ち着いたら」と笑顔だった。

門松作りでは、地元の於保忠さん（70）の指導を受けながら、ナンテンやヤブコウジなどを添え、30センチの門松を作った。体験に先立ち、同町小川内地区の「五ヶ山ダム」建設現場などを見学した。

留学生の日本文化体験は、県全域をキャンパスと位置づけ、学生が地域で学習するよう推進する「地（知）の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀」の一環。（大塚堅志）

座禅に「心落ち着いた」



日本文化体験で座禅を組む佐賀大の短期留学生たち「吉野ヶ里町の背振山修学院」

2014/12/12 読売新聞

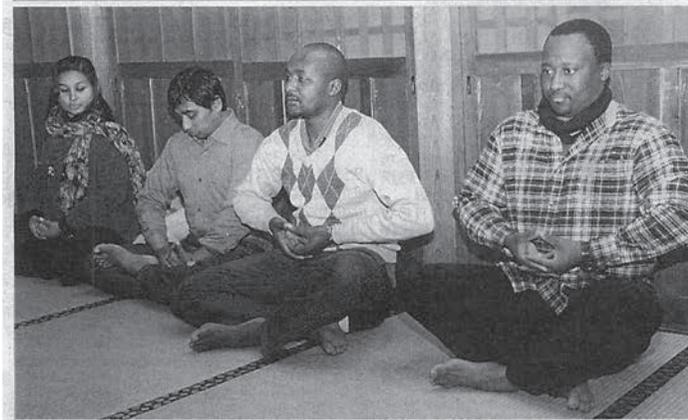
佐賀大留学生 座禅を体験

吉野ヶ里の修学院

日本に来て間もない佐賀大の留学生が吉野ヶ里町の修学院で座禅を体験した。参加した50人は慣れない姿勢に苦しみながらも、新鮮な体験に感動した様子だった。

学生が地域で学ぶ機会を増やす同大の事業の一環で、6日に実施。9月に来日した中国やパングラディッシュ、アメリカなどの留学生に対し、坐口諦順住職が「座禅は気持ちを正常に戻すために「行つ」などと説明した後、足の組み方や手の形の結び方など作法を教えた。

留学生はゆっくり息を吐いて目をつぶり、約15分間

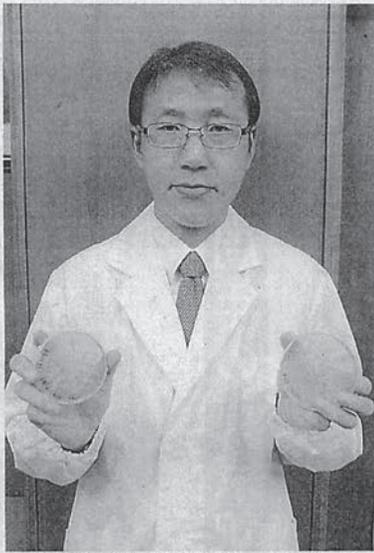


座禅を組む留学生

座禅を組んだ。体験後は、しびれた足をさするなどしていた。フィンランドのアンティ・ハウリネンさん（26）は「足が痛くなったが、母国ではできない経験。頭の中をクリア（無）にするのが難しいと話していた。

■低アルコール日本酒用酵母開発

2014/12/22 佐賀新聞



日本酒製造時においておいを抑える酵母を開発した北垣浩志准教授—佐賀大

低アルコール日本酒向け

おい抑える酵母開発

スパークリング清酒などアルコール度数が低い日本酒の製造に適した酵母を、佐賀大農学部の中垣浩志准教授(43)が開発した。ミトコンドリアを活用し、低アルコールの日本酒を製造する際に発生するおいを抑える。県内の蔵元が既に利用している。日本醸造協会は今月から酵母を頒布し始めた。大学で開発された酵母が協会から頒布されるのは108年ぶりという。

スパークリング清酒は口当たりが爽やかで、ピルビン酸やジアセチルなどの物質が発生するの
が原因で、低アルコールの日本酒は製造時に発生するおいが課題になってい

佐賀大農学部
中垣浩志准教授

特許取得、醸造協が頒布

に分解するミトコンドリアを活用することでおいを抑えることに成功した。酒造メーカーは日本醸造協会が頒布した酵母や、独自開発した酵母などを使って日本酒を製造する。北垣氏によると、公的研究機関が開発した酵母を協会が全国に頒布した例は少なく、大学では1906(明治39)年の東京帝国大・高橋貞造教授以来という。北垣氏は今回の研究で特許を取得し、米国の微生物学会の学会誌にも掲載された。

(江島貴之)

■コミュニティ・キャンパス佐賀シンポジウム2014

2014/12/22 佐賀新聞

パネル討論では佐賀大農学部2年の中島美咲さんが、吉野ヶ里町の荒廃竹林の伐採などに取り組んだ感想を発表。多良正裕同町長は「一緒に作業したお年寄りがすくすく元気になった。孫のような学生から元気をもらっ

佐賀市 学生と市民協働のまちづくりを考えるシンポジウム(佐賀大学・西九州大学主催)が20日、佐賀市のアバンセで開かれた。産官学

の関係者と学生9人が登壇し、両大学が取り組む地域課題解決型の実践講義を紹介。高齢者サロン参加などで地元活性化につなげた成果を報告した。

地域活性化へ協働 学生と市民まちづくりシンポ

高齢者サロンなど成果報告



高齢者サロンに参加した森晴夏さん(右端)らが取り組みの内容を報告、成果と課題を話し合った＝佐賀市のアバンセ

た」と評価した。西九大健康福祉学部2年の森晴夏さんは「高齢者サロン」に参加して学んだ知識を実践、スキル不足を実感したと語った。これに対し、佐賀市の松尾邦彦企画調整部長は「若い人の頑張りにスタップが刺激を受けた」といい、「活動のマンネリ化が解消した」とした。取り組みについて佐賀大全学教育機構の五十嵐勉教授は「大学で学べないことを体験できている。就職活動に役立つし、市民としてのコミュニケーション力もついた」と手応えを報告。一方、江里口秀次小城市長は「地域課題の解決に即効性を求める思いがあり、人材育成をゆっくり進めたい大学と少しずれもある」と課題も指摘した。シンポジウムは、2013年度に国の「地(知)の拠点整備事業」に選定された実践教育を知ってもらおうと開催。約350人が参加した。(大田浩司)

■国の天然記念物ヤマネの生息確認

2015/1/28 西日本新聞

国天然
記念物
ヤマネ
15年ぶり
確認

佐賀大准教授ら 多良山系3カ所

佐賀大学准教授ら（藤田 基博、佐賀大准教授ら）は、国の天然記念物「ヤマネ」の生息を確認したと発表し、多良山系3カ所（佐賀県大田町、大田町、大田町）で確認された。佐賀大准教授らによると、ヤマネは、多良山系3カ所（佐賀県大田町、大田町、大田町）で確認された。佐賀大准教授らによると、ヤマネは、多良山系3カ所（佐賀県大田町、大田町、大田町）で確認された。



佐賀大准教授ら（藤田 基博、佐賀大准教授ら）は、国の天然記念物「ヤマネ」の生息を確認したと発表し、多良山系3カ所（佐賀県大田町、大田町、大田町）で確認された。佐賀大准教授らによると、ヤマネは、多良山系3カ所（佐賀県大田町、大田町、大田町）で確認された。

2015/1/28 佐賀新聞



ヤマネの生息確認

国天然記念物 多良山系3カ所で

佐大チーム、15年ぶり

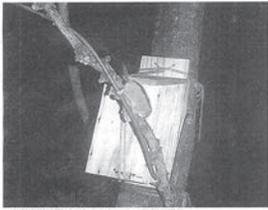
佐賀大学は、国の天然記念物「ヤマネ」の生息を確認したと発表し、多良山系3カ所（佐賀県大田町、大田町、大田町）で確認された。佐賀大准教授らによると、ヤマネは、多良山系3カ所（佐賀県大田町、大田町、大田町）で確認された。

2015/3/3 朝日新聞

ヤマネ15年ぶりに確認

県内各地でヤマネが確認されたのは、1999年（平成11年）以来、約15年ぶりである。佐賀県環境自然課によると、佐賀市東与賀町の干潟で、ヤマネの生息が確認された。ヤマネは、環境省が定める絶滅危惧Ⅰ類の生物で、佐賀県では、多良山系3地点で生息が確認されている。ヤマネは、環境省が定める絶滅危惧Ⅰ類の生物で、佐賀県では、多良山系3地点で生息が確認されている。

佐賀大グループ、撮影成功



佐賀大学環境学部の学生が、佐賀市東与賀町の干潟で、ヤマネの生息を確認し、撮影に成功した。撮影は、環境学部の学生が、佐賀市東与賀町の干潟で、ヤマネの生息を確認し、撮影に成功した。

県の絶滅危惧Ⅰ類 多良山系3地点で生息

佐賀県では、多良山系3地点で、絶滅危惧Ⅰ類の生物、ヤマネの生息が確認されている。佐賀県では、多良山系3地点で、絶滅危惧Ⅰ類の生物、ヤマネの生息が確認されている。

東与賀小学校での環境授業「干潟の生き物観察会」

2015/2/1 佐賀新聞

干潟の豊かさ 再発見

有明海海岸



東与賀小5年生が環境授業

佐賀市の東与賀小北村幹事（校長）の5年生96人が1月23日、東与賀町の干潟よか公園で有明海に住む生物や渡り鳥を観察した。地元自然や環境を学ぶ授業の一環、子どもたちは潮でゴカイを見つけたり、望遠鏡で希少種のクロソウヘラサキを確認して身近にある豊かな自然を再発見した。

児童は泥の中の生き物を見つめる「自然観察」と、渡り鳥を見つめる「野鳥観察」に取り組んだ。自然観察では、ザルに入れた泥を水でこし、ゴカイや巻貝を見つけた。カニの巣穴に石ころを流し込んで地をどけた。将基君は「生き物がたくさんいて楽しい」と喜んだ。野鳥観察は、佐賀野鳥の会会員の指導を受けた。

生物や野鳥を観察

ながら図鑑片手に行くと、木村美月さんは「ツクシカモの顔がしっかり見えてかわいかった」。坂田旺司さんも「メダロカモノが気持ちよかった。水に浮いていたと声を聞かせた。地域への愛着を深めてもらうと、佐賀大農学部との学生や東与賀まちづくり協議会のメンバーとの協力を受けて実施した。児童は学習内容を文章や絵にして発表する予定。（大塚敬志）

干潟の泥を水でこし、ゴカイや貝などの生き物を探す東与賀小5年の児童たち＝佐賀市東与賀町の干潟よか公園海岸

広報関係

地域における学びの機会としてプロジェクトDを紹介

教育紹介

地域における学びの機会

経済学部では、2年次後学期からすべての学生が専門ゼミに所属し、卒業までの2年間半、各教員の専門分野について勉強しています。私のゼミでは、経済地理学、地域経済学について、2年次には文献の輪読を通じて基礎的な知識の習得を、3年次にはそれに加えてグループ研究を、4年次にはそれまでの集大成として各自テーマを設定し卒業論文の作成を行っています。ここでは今年の3年生が行ってきたグループ研究の取組について紹介します。



牛津総合公園の視察

と「合併自治体における公共施設の利



小城市役所でのワークショップ

活用と地域活性化というテーマで、牛津保健福祉センターアイル及び隣接する牛津総合公園への利活用策を考えるという課題に取り組んでいます。小城市は平成17年に小城町、三日月町、牛津町、声刈町の4町が合併して誕生した自治体であり、市内に類似の施設を抱えているため、これらの公共施設のあり方や利活用策を再検討しているところです。

この調査は、佐賀大学が平成25年度からすすめている「地(超)の拠点整備事業」のプロジェクトD「地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元」の一環でもあり、自治体との協力により、地域が抱える課題を題材に、学生が調査・研究および対策の検討を行い、その成果を地域に還元することを目指し取り組んでいます。地域が抱える現実の課題をテーマにする以上、先行研究や先進事例について文献を読んだり、統計データをパソコンで調べたりといった、机上調査のみならず、現場に足を運び、生の実態を見たり、話を聞いたりとといった実地調査が重要となります。実際、学生たちは地域住民の声を聞くため、施設利用者へのインタビューを行ったり、近隣の小学校において小学生とのワークショップを行ったりと、また当該地域以外で先進的な取組をしている現場に出かけて調査を行ったりと、大学の外での活動も積極的に進めてきました。その際、小城市役所職員の方々ははじめ地域の方々には、貴重なアドバイザーやフィールドを提供していただくなど、学生たちを温かく受け入れ、一緒に教育していただき、大変感謝しています。



小城市長への報告会

牛津小学校でのワークショップ



こうした地域における学びの機会には、学生たちが今後勉強をすすめていくうえでのみならず、将来さまざまな地域において社会生活を送るうえで、大変意義ある貴重な経験となったのではと考えます。



とだ じゅんいち 順一郎
経済学部経済学講座
准教授

■学内広報関係

■かちがらす32号

地(知)の拠点におけるプロジェクトAの取り組みを学生の視点から紹介

地(知)の拠点

地(知)の拠点整備事業
佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生教職員による実践的な教育研究を通して、地(佐賀県)域と知(教育研究)のアクティベーションを進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能強化を実現するため、両大学の教育研究シーズを集約し、佐賀県域が抱える地域課題

題としての中心市街地・離島・山間地域の活性化、地域産業の振興とコミュニティの再生、地域医療・保健・福祉の向上、子どもの教育支援、高齢者の健康改善および地域環境の保全等の解決に向けた12の教育研究プロジェクトを推進しています。(文部科学省平成25年度採択事業)
このプロジェクトでの佐賀大学の取組を紹介します。

地域の活性化に取り組む教育 「地(知)の拠点整備事業とインターフェース」



コンサート会場

私は教養教育のインターフェース、地域創成学プログラムを受講しています。このプログラムでは、40名の受講生が「町班」と「村班」に分かれて、地域の空洞化問題や地域コミュニティの活性化を課題にして、県内各地での調査研究・イベント支援のプロデュースなどを学んでいます。

私は村班のメンバーたちと、唐津市相知町の「蔵野の棚田」で行われる、ふるさとの灯りコンサートイベントの企画と運営に関わりました。蔵野の棚田は国の重要な文化的景観にも選定され、佐賀大学も農学部を中心に援農や教育ファームとして支援を行ってきたところです。私たちは、NPO法人蔵野の棚田を守ろう会や村の住民と協力して、平成25年に実施できなかったライトアップコンサートの復活に取り組みました。

石積み棚田のライトアップと竹灯籠

は、デザインを学んでいる友人の協力を得て作成しました。一番大変だったのは、竹灯籠づくりでした。蔵野や大学で土日や休み時間を使って、みんなでノコギリ・電気ドリルを使っての格闘でした。コンサート当日は、台風接近のため開演直前まで開催が危ぶまれましたが、会場を公民館に移して開催しました。みんなで頑張った竹灯籠は、吉野ヶ里で行われた、山茶花園の夜会コンサートに活用されたことが救いでした。

村班は、次に、佐賀市大和町松柳で、空家を活用した中山間地域の活性化に取り組み予定です。



会場準備

の舞台演出、出演して頂けるアーティストとの交渉、広報活動等に取り組みました。アーティストは、棚田の景観や雰囲気、そして野外コンサートを意識して選びました。広報用のポスター



棚田発見塾のメンバー



松 詩織
文化教育学部
美術・工芸課程2年

資料

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 運営委員会設置要項

(平成25年9月26日制定)

(設置)

第1 国立大学法人佐賀大学及び学校法人西九州大学に、地(知)の拠点整備事業(事業名称:コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト)の実施に関し、必要な事項を審議するため、コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) プロジェクト実施に関する企画の立案及び推進に関すること。
- (2) プロジェクトの予算管理に関すること。
- (3) 自治体等との連携の推進に関すること。
- (4) プロジェクトの自己点検評価に関すること。
- (5) その他プロジェクトの実施に関する事項

(組織)

第3 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 佐賀大学理事のうち佐賀大学長が指名した者 1人
- (2) 西九州大学理事のうち西九州大学長が指名した者 1人
- (3) 佐賀大学における事業実施責任者
- (4) 西九州大学における事業実施責任者
- (5) 佐賀大学におけるプロジェクト実施責任者
- (6) 西九州大学におけるプロジェクト実施責任者
- (7) 佐賀大学全学教育機構専任教員のうち佐賀大学長が指名した者 若干人
- (8) 西九州大学グループ地域連携センター教員のうち西九州大学長が指名した者 若干人
- (9) コミュニティ・キャンパス佐賀コーディネーター
- (10) 佐賀大学研究協力課長
- (11) 西九州大学総務課長
- (12) その他第5第1号に規定する委員長が指名した者 若干人

(任期)

第4 第3第5号から第8号まで及び第10号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

- 2 第3第5号から第8号まで及び第10号の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5 運営委員会に委員長を置き、第3第1号の委員をもって充て、副委員長は第3第3号及び第4号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代行する。

(議事)

第6 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- ただし、やむを得ない理由により出席ができない場合にあっては、代理者の出席を認め、その者を委員に代えることができる。
- 2 議事は、出席した委員の3分の2以上の多数をもって議決する。

(委員以外の者の出席)

第7 運営委員会が必要と認めるときは、運営委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会)

第8 運営委員会に必要なに応じて部会を置くことができる。

- 2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9 運営委員会の事務は、佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て、佐賀大学学術研究協力部研究協力課が行う。

(雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成25年10月1日から実施する。
- 2 この要項実施後、最初に選出される第3第5号から第8号まで及び第10号の委員の任期は、第4第1項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則(平成26年6月30日改正)

この要項は、平成26年6月30日から実施する。

■コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション プロジェクト運営委員会

<佐賀大学>

平成26年6月30日

部 局	職 名	氏 名
理事（研究・国際・社会貢献担当）	副学長	中 島 晃
全学教育機構	教授	* 五十嵐 勉
文化教育学部	教授	* 井 上 伸 一
経済学部	准教授	戸 田 順一郎
医学部	教授	杉 岡 隆
工学系研究科	教授	三 島 伸 雄
（農）附属アグリ創生教育研究センター	副センター長	上 埜 喜 八
全学教育機構	准教授	郡 山 益 実
全学教育機構	教授	諸 泉 俊 介
全学教育機構	講師	* 山 内 一 祥
研究協力課	コーディネーター	* 三 島 舞
事務局	研究協力課長	弓 削 純 一

<西九州大学>

部 局	職 名	氏 名
理事（社会貢献担当）	副学長	* 井 本 浩 之
健康栄養学部	教授	柳 田 晃 良
健康福祉学部	教授	酒 井 出
健康栄養学部	教授	安 田 みどり
リハビリテーション学部	准教授	* 上 城 憲 司
健康福祉学部	講師	* 岡 部 由紀夫
地域連携センター	コーディネーター	* 土 橋 真奈美
地域連携センター	コーディネーター	* 徳 安 優 一
事務局	総務課長	山 中 健 正

*は企画部会の構成員である。

■コミュニティ・キャンパス佐賀 推進会議設置要項

(平成25年11月15日制定)

(設置)

第1 地(知)の拠点整備事業(事業名称:コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト)の実施に関し、必要な事項を協議するため、コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議(以下「推進会議」という。)を置く。

(協議事項)

第2 推進会議は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 地域のニーズに対応した教育研究の推進に関する事。
- (2) 地域と大学間の積極的な連携・対話の推進に関する事。
- (3) その他プロジェクトの実施に関する事項

(組織)

第3 推進会議は、次に掲げる機関の担当者をもって構成する。

- (1) 佐賀県
- (2) 佐賀市
- (3) 神埼市
- (4) 唐津市
- (5) 小城市
- (6) 鹿島市
- (7) 嬉野市
- (8) 吉野ヶ里町
- (9) 佐賀大学
- (10) 西九州大学
- (11) その他第4第1項に規定する会長が指名した者 若干人

(会長)

第4 推進会議に会長を置き、構成員の互選により選出する。

- 2 会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 会長は、推進会議を招集し、その議長となる。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長が指名した構成員がその職務を代行する。

(構成員以外の者の出席)

第5 推進会議は、必要に応じ構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6 推進会議に関する事務は、佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て、佐賀大学学術研究協力部研究協力課が行う。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、推進会議が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成25年11月15日から実施する。
- 2 この要項の実施の際、現に会長の職にある者の任期は、第4第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

■コミュニティ・キャンパス佐賀 推進会議名簿

平成26年9月26日

所 属	職 名	氏 名
佐賀県	政策監G	中 島 健 二
佐賀市	企画調整部 企画政策課	筒 井 倫 子
神埼市	総務企画部 市長公室	中 島 勝 利
唐津市	企画政策課（交流協定担当者）	牛 草 和 人
小城市	企画課	熊 谷 郁 子
鹿島市	総務部 企画財政課	木 原 智 典
嬉野市	企画部 企画企業誘致課	山 口 純 一
吉野ヶ里町	企画課	直 塚 政 浩
佐賀大学	全学教育機構教授	五十嵐 勉
西九州大学	副学長	井 本 浩 之
認定NPO法人 地球市民の会	事務局長	大 野 博 之

.....

<関係者>

佐賀大学	コーディネーター	三 島 舞
西九州大学	コーディネーター	土 橋 真奈美
西九州大学	コーディネーター	徳 安 優 一
佐賀大学	教務課長	松 尾 訓
佐賀大学	研究協力課長	弓 削 純 一
西九州大学	総務課長	山 中 健 正
佐賀大学	研究協力課副課長	岡 清 隆
佐賀大学	研究協力課係長	松 尾 和 俊
佐賀大学	研究協力課係長	北 島 秀 俊
佐賀大学	事務補佐員（経理）	永 石 瑞 穂
佐賀大学	事務補佐員（教務）	内 川 藤 代

編集後記

地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト

コーディネーター **三島 舞**



平成26年度は本格始動の年となり、各プロジェクトが連携地域において様々な活動を実施した。活動を通して徐々に地域の方と学生との交流も生まれ、大学の「知」を「地」で生かすための基礎が整いつつある。後期には、学生が企画・運営する地域活性化イベントの開催や、調査・研究結果の地元還元、学生による地域住民への講習会の実施などを行い、多くの地域志向教育・研究・社会貢献活動の成果が見られた。来年度も、学生の頑張る姿に励まされ、ときに感動しながら事業を推進していきたい。

平成26年度
地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト

成果報告書

平成27年3月31日発行

発行 国立大学法人 佐賀大学
学術研究協力部研究協力課
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地
TEL:0952-28-8958
FAX:0952-28-8186
<http://www.ccsap.saga-u.ac.jp>
企画・編集 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト推進室
デザイン・印刷 福博印刷株式会社

本書に掲載されている写真及び記事の無断転載、複写・複製を禁止します。



文部科学省
地(知)の拠点

SAGA
佐賀大学 * 西九州大学
コミュニティ・キャンパス佐賀